

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	簿記入門 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	30時間(1単位)
授業コマ数	15コマ(1コマ90分)
授業概要	株式会社における複式簿記の基本原理を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	簿記の基本原理の理解する
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 簿記の目的(基礎編) 2 簿記一巡(基礎編) 3 商品売買 I (基礎編) 4 商品売買 II (基礎編) 5 決算整理(基礎編) 6 精算表(基礎編) 7 現金および預金(基礎編) 8 手形(基礎編) 9 有形固定資産の決算整理(基礎編) 10 その他の債権および債務(基礎編) 11 その他の勘定および訂正仕訳(基礎編) 12 有形固定資産の決算整理(基礎編) 13 費用および収益の決算整理(基礎編) 14 株式会社の純資産(基礎編) 15 英米式決算法(基礎編)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	一般教養 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期・後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	30時間(1単位)
授業コマ数	15コマ(1コマ90分)
授業概要	ビジネスで一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	一般教養として社会で求められる漢字能力を身に付けることを目的とする。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 訓読み・送り仮名① 2 訓読み・送り仮名② 3 熟語① 4 熟語② 5 熟語③ 6 異字同訓・同音異義 7 誤字訂正① 8 誤字訂正②・類義語 9 反対語 10 漢字の意味・使い方① 11 漢字の意味・使い方② 12 項目別模擬試験① 13 項目別模擬試験② 14 直前模擬試験① 15 直前模擬試験②
成績評価方法 (試験実施方法)	模擬試験100% 模擬試験における科目解答状況
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	ビジネス教養 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期・後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	30時間(1単位)
授業コマ数	15コマ(1コマ90分)
授業概要	企業内で多岐にわたり使用される電卓のスピード、正確性を高める実技演習を行う。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	電卓技能の向上を目的とする。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 電卓の使い方、端数の取り扱い 2 電卓演習① 3 電卓演習② 4 電卓演習③ 5 電卓演習④ 6 電卓演習⑤ 7 電卓演習⑥ 8 電卓演習⑦ 9 電卓演習⑧ 10 電卓演習⑨ 11 電卓演習⑩ 12 電卓演習⑪ 13 電卓演習⑫ 14 電卓演習⑬ 15 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	キャリアデザイン I
実務家教員	○
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期・後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	30時間(1単位)
授業コマ数	15コマ(1コマ90分)
授業概要	面接試験において求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	面接の入退室および自己PRができるようになる
教科書	オリジナルテキスト
特記	オフィスワークの経験のある教員が、会計事務所内での基本的な心構え、ビジネスマナーについて教育を行う科目
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 面接の基本 2 入退室の仕方 3 スーツの着こなし、身嗜み確認 4 自己PR作成① 5 自己PR作成② 6 自己PR作成③ 7 面接質問項目① 8 面接質問項目② 9 面接質問項目③ 10 会計事務所・企業研究① 11 会計事務所・企業研究① 12 模擬面接練習① 13 模擬面接練習② 14 模擬面接練習③ 15 模擬面接試験
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	2級商業簿記基礎 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	60時間(2単位)
授業コマ数	30コマ(1コマ90分)
授業概要	基本的な財務報告書類の作成方法・株式会社会計の基礎を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	決算整理を中心とした会計処理、勘定形式の報告書類の理解、企業取引に対する会計処理の理解を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 簿記一巡の手続きと財務諸表(基礎編) 2 現金預金(基礎編) 3 債権・債務(基礎編) 4 棚卸資産(基礎編) 5 有価証券①(基礎編) 6 有価証券②(基礎編) 7 固定資産①(基礎編) 8 固定資産②(基礎編) 9 固定資産③(基礎編) 10 固定資産④(基礎編) 11 債務保証(基礎編) 12 引当金(基礎編) 13 収益と費用(基礎編) 14 為替換算会計(基礎編) 15 株式会社の純資産(基礎編) 16 企業結合(基礎編) 17 確認テスト(第1回) 18 税金①(基礎編) 19 税金②(基礎編) 20 伝票と帳簿(基礎編) 21 決算①(基礎編) 22 決算②(基礎編) 23 本支店会計①(基礎編) 24 本支店会計②(基礎編) 25 連結会計①(基礎編) 26 連結会計②(基礎編) 27 連結会計③(基礎編) 28 連結会計④(基礎編) 29 連結会計⑤(基礎編) 30 確認テスト(第2回)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	2級工業簿記基礎 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	60時間(2単位)
授業コマ数	30コマ(1コマ90分)
授業概要	工企業を前提とする会計処理の基礎を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	伝統的な個別原価計算および総合原価計算を学び、一部、原価計算の基礎についても習熟することを目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 工業簿記の基礎(基礎編) 2 個別原価計算における工業簿記の記帳体系(基礎編) 3 材料費会計(基礎編) 4 労務費会計(基礎編) 5 経費会計(基礎編) 6 製造間接費会計(基礎編) 7 製造間接費差異の原因別分析(基礎編) 8 単純個別原価計算(基礎編) 9 工企業の財務諸表(基礎編) 10 確認テスト(第1回) 11 部門別計算①(基礎編) 12 部門別計算②(基礎編) 13 総合原価計算における工業簿記の記帳体系(基礎編) 14 単純総合原価計算(基礎編) 15 工程別総合原価計算(基礎編) 16 組別総合原価計算(基礎編) 17 等級別総合原価計算(基礎編) 18 減損および仕損(基礎編) 19 標準原価計算①(基礎編) 20 標準原価計算②(基礎編) 21 標準原価計算③(基礎編) 22 CVP分析①(基礎編) 23 CVP分析②(基礎編) 24 直接原価計算(基礎編) 25 工業簿記総まとめ①(基礎編) 26 工業簿記総まとめ②(基礎編) 27 工業簿記総まとめ③(基礎編) 28 工業簿記総まとめ④(基礎編) 29 工業簿記総まとめ⑤(基礎編) 30 確認テスト(第2回)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	2級簿記総合 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	90時間 (3単位)
授業コマ数	45コマ (1コマ90分)
授業概要	商企業および工企業の会計処理を問題演習を通じて学び、 本支店会計、連結会計、原価計算の基礎も学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	簿記2級レベルの会計知識と計算技術の習得を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 商業簿記総まとめ①(基礎編) 2 商業簿記総まとめ②(基礎編) 3 商業簿記総まとめ③(基礎編) 4 商業簿記総まとめ④(基礎編) 5 商業簿記総まとめ⑤(基礎編) 6 商業簿記総まとめ⑥(基礎編) 7 商業簿記総まとめ⑦(基礎編) 8 商業簿記総まとめ⑧(基礎編) 9 商業簿記総まとめ⑨(基礎編) 10 商業簿記総まとめ⑩(基礎編) 11 商業簿記総まとめ⑪(基礎編) 12 商業簿記総まとめ⑫(基礎編) 13 工業簿記・原価計算総まとめ①(基礎編) 14 工業簿記・原価計算総まとめ②(基礎編) 15 工業簿記・原価計算総まとめ③(基礎編) 16 工業簿記・原価計算総まとめ④(基礎編) 17 工業簿記・原価計算総まとめ⑤(基礎編) 18 工業簿記・原価計算総まとめ⑥(基礎編) 19 総合問題対策①(商業簿記と工業簿記_基礎編) 20 総合問題対策②(商業簿記と工業簿記_基礎編) 21 総合問題対策③(商業簿記と工業簿記_基礎編) 22 総合問題対策④(商業簿記と工業簿記_基礎編) 23 総合問題対策⑤(商業簿記と工業簿記_基礎編) 24 総合問題対策⑥(商業簿記と工業簿記_基礎編) 25 総合問題対策⑦(商業簿記と工業簿記_基礎編) 26 総合問題対策⑧(商業簿記と工業簿記_基礎編) 27 総合問題対策⑨(商業簿記と工業簿記_基礎編) 28 総合問題演習①(テスト形式_基礎編) 29 総合問題演習①(テスト形式_基礎編) 30 総合問題演習①(テスト形式_基礎編) 31 総合問題演習②(テスト形式_基礎編) 32 総合問題演習②(テスト形式_基礎編) 33 総合問題演習②(テスト形式_基礎編) 34 総合問題演習③(テスト形式_基礎編) 35 総合問題演習③(テスト形式_基礎編) 36 総合問題演習③(テスト形式_基礎編) 37 総合問題演習④(テスト形式_基礎編) 38 総合問題演習④(テスト形式_基礎編) 39 総合問題演習④(テスト形式_基礎編) 40 総合問題演習⑤(テスト形式_基礎編) 41 総合問題演習⑤(テスト形式_基礎編) 42 総合問題演習⑥(テスト形式_基礎編) 43 総合問題演習⑥(テスト形式_基礎編) 44 総合問題演習⑦(テスト形式_基礎編) 45 総合問題演習⑦(テスト形式_基礎編)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	1級会計学入門 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	90時間(3単位)
授業コマ数	45コマ(1コマ90分)
授業概要	資産負債中心観を主体とした理論体系を学び現行基準との整合性、課題を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	現行基準の理論体系の理解を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 財務諸表(入門編) 2 有価証券(入門編) 3 デリバティブ取引・ヘッジ会計(入門編) 4 有形固定資産(入門編) 5 割引現在価値(入門編) 6 リース取引①(入門編) 7 リース取引②(入門編) 8 固定資産の減損(入門編) 9 研究開発費とソフトウェア(入門編) 10 繰延資産(入門編) 11 社債(入門編) 12 引当金①(入門編) 13 引当金②(入門編) 14 退職給付①(入門編) 15 退職給付②(入門編) 16 資産除去債務(入門編) 17 純資産(入門編) 18 新株予約権と新株予約権付社債(入門編) 19 ストック・オプション(入門編) 20 税効果会計①(入門編) 21 税効果会計②(入門編) 22 外貨建取引①(入門編) 23 外貨建取引②(入門編) 24 商品売買等①(入門編) 25 商品売買等②(入門編) 26 商品売買等③(入門編) 27 工事契約(入門編) 28 本支店会計①(入門編) 29 本支店会計②(入門編) 30 連結財務諸表総論(入門編) 31 資本連結(入門編) 32 成果連結(入門編) 33 持分法(入門編) 34 連結税効果会計(入門編) 35 包括利益(入門編) 36 在外子会社(入門編) 37 企業結合(入門編) 38 事業分離①(入門編) 39 事業分離②(入門編) 40 キャッシュフロー計算書①(入門編) 41 キャッシュフロー計算書②(入門編) 42 キャッシュフロー計算書③(入門編) 43 連結キャッシュフロー計算書①(入門編) 44 連結キャッシュフロー計算書②(入門編) 45 連結キャッシュフロー計算書③(入門編)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	1級原価計算入門 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	90時間(3単位)
授業コマ数	45コマ(1コマ90分)
授業概要	伝統的な工業簿記および原価計算の基本的な内容を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	工企業を前提とする会計処理の習得を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 工業簿記と原価計算(入門編) 2 費目別計算①(入門編) 3 費目別計算②(入門編) 4 部門別計算①(入門編) 5 部門別計算②(入門編) 6 部門別計算③(入門編) 7 個別原価計算①(入門編) 8 個別原価計算②(入門編) 9 個別原価計算③(入門編) 10 総合原価計算①(入門編) 11 総合原価計算②(入門編) 12 総合原価計算③(入門編) 13 総合原価計算④(入門編) 14 標準原価計算①(入門編) 15 標準原価計算②(入門編) 16 標準原価計算③(入門編) 17 標準原価計算④(入門編) 18 標準原価計算⑤(入門編) 19 標準原価計算⑥(入門編) 20 直接原価計算(入門編) 21 短期利益計画①(入門編) 22 短期利益計画②(入門編) 23 予算管理①(入門編) 24 予算管理②(入門編) 25 予算管理③(入門編) 26 意思決定会計①(入門編) 27 意思決定会計②(入門編) 28 意思決定会計③(入門編) 29 意思決定会計④(入門編) 30 意思決定会計⑤(入門編) 31 意思決定会計⑥(入門編) 32 意思決定会計⑦(入門編) 33 意思決定会計⑧(入門編) 34 工業簿記と原価計算まとめ①(入門編) 35 工業簿記と原価計算まとめ②(入門編) 36 工業簿記と原価計算まとめ③(入門編) 37 工業簿記と原価計算まとめ④(入門編) 38 工業簿記と原価計算まとめ⑤(入門編) 39 工業簿記と原価計算まとめ⑥(入門編) 40 工業簿記と原価計算まとめ⑦(入門編) 41 工業簿記と原価計算まとめ⑧(入門編) 42 工業簿記と原価計算まとめ⑨(入門編) 43 工業簿記と原価計算まとめ⑩(入門編) 44 工業簿記と原価計算まとめ⑪(入門編) 45 工業簿記と原価計算まとめ⑫(入門編)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	1級会計学基礎 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	30時間(1単位)
授業コマ数	15コマ(1コマ90分)
授業概要	会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計の基礎について学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	会計知識の習得および計算技術を身に付けることを目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 有価証券(基礎編) 2 有形固定資産(基礎編) 3 リース取引(基礎編) 4 固定資産の減損(基礎編) 5 退職給付(基礎編) 6 純資産(基礎編) 7 新株予約権と新株予約権付社債(基礎編) 8 スtock・オプション(基礎編) 9 税効果会計(基礎編) 10 外貨建取引(基礎編) 11 商品売買等(基礎編) 12 資本連結(基礎編) 13 連結税効果会計(基礎編) 14 在外子会社、事業分離(基礎編) 15 キャッシュフロー計算書、連結キャッシュフロー計算書(基礎編)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	1級原価計算基礎 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	30時間(1単位)
授業コマ数	15コマ(1コマ90分)
授業概要	伝統的な工業簿記および原価計算の基礎および経営戦略の基本的な内容を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	最新の原価管理理論の基礎の習得および計算技術の習得を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 個別原価計算(基礎編) 2 部門別計算(基礎編) 3 総合原価計算(基礎編) 4 標準原価計算(基礎編) 5 直接原価計算(基礎編) 6 短期利益計画(基礎編) 7 予算管理(基礎編) 8 事業部制(基礎編) 9 業務的意思決定①(基礎編) 10 業務的意思決定②(基礎編) 11 構造的意意思決定①(基礎編) 12 構造的意意思決定②(基礎編) 13 構造的意意思決定③(基礎編) 14 戦略的原価計算①(基礎編) 15 戦略的原価計算②(基礎編)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	1級会計学総合 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	90時間(3単位)
授業コマ数	45コマ(1コマ90分)
授業概要	会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計について、より詳細に学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	簿記1級検定合格程度の会計知識および計算技術の習得を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 現金預金、債権の譲渡、デリバティブ取引、有価証券、リース取引 2 貸倒引当金、ヘッジ会計、減損会計、社債、退職給付会計 3 資産除去債務、セール・アンド・リースバック取引、ストック・オプション 4 自己株式、為替予約、外貨建有価証券、圧縮記帳 5 売価還元原価法、転換社債 6 電子記録債権、特別目的会社、剰余金の配当、固定資産 7 連結会計 8 キャッシュフロー計算書、企業結合 9 返品調整引当金、外貨建有価証券(減損)、ヘッジ会計 10 本支店会計総合問題(在外支店) 11 本支店会計総合問題(決算整理後合併残高試算表) 12 決算整理後残高試算表作成(会計上の変更) 13 決算整理後残高試算表作成(委託販売) 14 損益計算書作成(各種財務諸表金額算定) 15 損益計算書作成(財務諸表の注記に関する金額算定) 16 連結損益計算書 17 連結貸借対照表 18 会計上の変更 19 包括利益 20 理論対策: 語群選択問題、正誤判定および穴埋め問題、記述問題① 21 理論対策: 語群選択問題、正誤判定および穴埋め問題、記述問題② 22 理論対策: 語群選択問題、正誤判定および穴埋め問題、記述問題③ 23 理論対策: 語群選択問題、正誤判定および穴埋め問題、記述問題④ 24 理論対策: 語群選択問題、正誤判定および穴埋め問題、記述問題⑤ 25 理論対策: 語群選択問題、正誤判定および穴埋め問題、記述問題⑥ 26 総合問題対策①(テスト形式の問題解説_基礎編) 27 総合問題対策①(テスト形式の問題解説_基礎編) 28 総合問題対策②(テスト形式の問題解説_基礎編) 29 総合問題対策②(テスト形式の問題解説_基礎編) 30 総合問題対策③(テスト形式の問題解説_基礎編) 31 総合問題対策③(テスト形式の問題解説_基礎編) 32 総合問題演習①(テスト形式_基礎編) 33 総合問題演習①(テスト形式_基礎編) 34 総合問題演習②(テスト形式_基礎編) 35 総合問題演習②(テスト形式_基礎編) 36 総合問題演習③(テスト形式_基礎編) 37 総合問題演習③(テスト形式_基礎編) 38 総合問題演習④(テスト形式_基礎編) 39 総合問題演習④(テスト形式_基礎編) 40 総合問題演習⑤(テスト形式_基礎編) 41 総合問題演習⑤(テスト形式_基礎編) 42 総合問題演習⑥(テスト形式_基礎編) 43 総合問題演習⑥(テスト形式_基礎編) 44 総合問題演習⑦(テスト形式_基礎編) 45 総合問題演習⑦(テスト形式_基礎編)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	1級原価計算総合 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	90時間(3単位)
授業コマ数	45コマ(1コマ90分)
授業概要	原価計算基準の理論体系、多様化する製造過程に対する会計処理、経営戦略について、より詳細に学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	簿記1級検定合格程度原価計算知識および計算技術の習得を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 実際単純個別原価計算 2 部門別計算 3 部門別個別原価計算 4 実際工程別総合原価計算① 5 実際工程別総合原価計算② 6 連産品原価の計算および追加加工の意思決定 7 標準総合原価計算(仕損費の処理) 8 標準総合原価計算(配合差異・歩留差異) 9 標準総合原価計算(原価差異の追加配賦) 10 標準個別原価計算 11 実際直接工程別総合原価計算 12 実際直接部門別個別原価計算 13 CVP分析 14 直接標準総合原価計算(総合予算編成 四半期現金収支) 15 直接標準総合原価計算(総合予算編成 資金調達) 16 予算統制(予算財務諸表作成) 17 直接標準原価計算(営業利益の差異分析) 18 事業部の業績測定 19 業務的意思決定(原価分解、最適セールスマックス、新規注文の引受可否) 20 業務的意思決定(部品の自製か購入か、優劣分岐点分析、経済的発注量) 21 構造的意決定(各種評価方法、取換投資、拡張投資) 22 構造的意決定(差額キャッシュフローの計算) 23 戦略的原価計算(損益・優劣分岐点、無限反復投資) 24 戦略的原価計算(原価企画・原価維持・原価改善、品質原価計算) 25 戦略的原価計算(ライフサイクルコスト、活動基準原価計算) 26 総合問題対策①(テスト形式の問題解説 基礎編) 27 総合問題対策①(テスト形式の問題解説 基礎編) 28 総合問題対策②(テスト形式の問題解説 基礎編) 29 総合問題対策②(テスト形式の問題解説 基礎編) 30 総合問題対策③(テスト形式の問題解説 基礎編) 31 総合問題対策③(テスト形式の問題解説 基礎編) 32 総合問題演習①(テスト形式 基礎編) 33 総合問題演習①(テスト形式 基礎編) 34 総合問題演習②(テスト形式 基礎編) 35 総合問題演習②(テスト形式 基礎編) 36 総合問題演習③(テスト形式 基礎編) 37 総合問題演習③(テスト形式 基礎編) 38 総合問題演習④(テスト形式 基礎編) 39 総合問題演習④(テスト形式 基礎編) 40 総合問題演習⑤(テスト形式 基礎編) 41 総合問題演習⑤(テスト形式 基礎編) 42 総合問題演習⑥(テスト形式 基礎編) 43 総合問題演習⑥(テスト形式 基礎編) 44 総合問題演習⑦(テスト形式 基礎編) 45 総合問題演習⑦(テスト形式 基礎編)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	2級商業簿記基礎Ⅱ
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	90時間(3単位)
授業コマ数	45コマ(1コマ90分)
授業概要	試算表、精算表、財務報告書など他の会計書類の関連性について体系的に学び、財務報告書類の作成方法・株式会社会計を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	商企業を前提とした、伝票会計、帳簿組織などの記帳技術を習得しつつ、報告書類の理解、企業取引に対する会計処理の理解を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 総論 2 簿記一巡の手続、財務諸表 3 現金預金、銀行勘定調整表 4 債権・債務 5 棚卸資産 6 有価証券①(有価証券の分類) 7 有価証券②(売買目的有価証券、満期保有目的債券) 8 有価証券③(子会社株式、関連会社株式) 9 有価証券④(その他有価証券、端数利息) 10 固定資産①(有形固定資産の取得、減価償却の方法、建設仮勘定) 11 固定資産②(有形固定資産の割賦購入、修繕費および改良費) 12 固定資産③(法人税法上の減価償却、圧縮記帳) 13 固定資産④(有形固定資産の売却、買換え、除却、滅失) 14 固定資産⑤(リース会計、無形固定資産) 15 固定資産⑥(ソフトウェア、投資その他資産) 16 債務保証 17 引当金①(貸倒引当金) 18 引当金②(貸倒引当金発生時の会計処理) 19 引当金③(その他の引当金) 20 収益と費用 21 為替換算会計①(外貨建取引) 22 為替換算会計②(為替予約) 23 株式会社の純資産①(意義、純資産) 24 株式会社の純資産②(株式の発行、剰余金の配当等) 25 株式会社の純資産③(株主資本の係数の変動) 26 企業結合 27 税金①(消費税) 28 税金②(法人税等) 29 税金③(税効果会計) 30 帳簿組織 31 伝票会計 32 決算①(決算整理、帳簿決算手続き) 33 決算②(財務諸表、精算表) 34 製造業を営む会社の決算処理 35 本支店会計①(意義、目的、本支店間取引、支店相互間取引) 36 本支店会計②(決算) 37 連結会計①(財務諸表) 38 連結会計②(支配獲得日の連結手続き) 39 連結会計③(支配獲得後の連結手続き) 40 連結会計④(連結会社相互間取引の相殺消去) 41 連結会計⑤(未実現利益の控除) 42 連結会計⑥(連結株主資本等変動計算書) 43 連結会計⑦(連結第1年度、連結第2年度) 44 確認テスト(第1回) 45 確認テスト(第2回)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	2級工業簿記基礎Ⅱ
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	90時間(3単位)
授業コマ数	45コマ(1コマ90分)
授業概要	工業簿記および原価計算の関係および会計処理を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	工企業の原価計算手法である個別原価計算および総合原価計算を学び、かつ、原価計算に関する知識習得を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 工業簿記の基礎 2 工業簿記の記帳体系①(個別原価計算) 3 工業簿記の記帳体系②(決算) 4 材料費会計①(材料の購入、返品、消費、棚卸減耗) 5 材料費会計②(予定消費価格による材料費の計算と記帳) 6 労務費会計①(支払額の計算と記帳) 7 労務費会計②(消費額の計算と記帳) 8 労務費会計③(予定消費賃率による消費額の計算と記帳) 9 経費会計 10 製造間接費会計①(実際配賦と予定配賦) 11 製造間接費会計②(差異の原因別分析) 12 単純個別原価計算①(単純個別原価計算) 13 単純個別原価計算②(仕損の処理) 14 部門別計算①(部門別計算の手続きと記帳体系) 15 部門別計算②(部門個別費と部門共通費) 16 部門別計算③(補助部門費の配賦①) 17 部門別計算④(補助部門費の配賦②) 18 部門別計算⑤(仕掛品の計算) 19 部門別計算⑥(差異の原因別分析) 20 工企業の財務諸表①(製造原価報告書) 21 工企業の財務諸表②(損益計算書、貸借対照表) 22 工業簿記の記帳体系(総合原価計算) 23 総合原価計算①(単純総合原価計算) 24 総合原価計算②(月末仕掛品原価の評価) 25 総合原価計算③(材料の投入形態) 26 総合原価計算④(損益計算書の作成) 27 総合原価計算⑤(減損の処理) 28 総合原価計算⑥(仕損の処理) 29 工程別総合原価計算①(月末仕掛品原価の計算) 30 工程別総合原価計算②(半製品の処理) 31 組別総合原価計算 32 等級別総合原価計算①(完成品総合原価に等価係数を用いる方法) 33 等級別総合原価計算②(当月製造費用に等価係数を用いる方法) 34 標準原価計算①(月末仕掛品および完成品原価の計算) 35 標準原価計算②(原価差異の計算) 36 標準原価計算③(仕掛品勘定の記帳方法) 37 標準原価計算④(直接材料費差異および直接労務費差異の原因別分析) 38 標準原価計算⑤(製造間接費差異の原因別分析①) 39 標準原価計算⑥(製造間接費差異の原因別分析②) 40 原価・営業量・利益関係の分析 41 直接原価計算①(直接原価計算) 42 直接原価計算②(固定費調整) 43 工場会計の独立 44 確認テスト(第1回) 45 確認テスト(第2回)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	2級商業簿記応用 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	30時間(1単位)
授業コマ数	15コマ(1コマ90分)
授業概要	商企業の会計処理に関する全体の関連性について体系的に学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	日々の取引、決算整理に関する一連の流れおよび財務諸表の作成について、上場企業レベルの資料を作成することができることを目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 現金預金 2 債権・債務、棚卸資産 3 有価証券 4 固定資産①(応用編①) 5 固定資産②(応用編②) 6 固定資産③(応用編③) 7 債務保証、引当金 8 収益と費用、為替換算会計 9 株式会社の純資産 10 企業結合、税金 11 決算 12 本支店会計 13 連結会計①(応用編①) 14 連結会計②(応用編②) 15 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	2級工業簿記応用 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	30時間(1単位)
授業コマ数	15コマ(1コマ90分)
授業概要	工業簿記および原価計算の関係および会計処理を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	工企業の原価計算手法である個別原価計算および総合原価計算を学び、かつ、原価計算に関する知識習得を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 工業簿記の記帳体系 2 材料費会計 3 労務費会計 4 経費会計、製造間接費会計 5 単純個別原価計算 6 部門別計算①(応用編①) 7 部門別計算②(応用編②) 8 工企業の財務諸表、総合原価計算 9 工程別総合原価計算 10 組別総合原価計算、等級別総合原価計算 11 標準原価計算①(応用編①) 12 標準原価計算②(応用編②) 13 原価・営業量・利益関係の分析 14 直接原価計算 15 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	2級簿記総合Ⅱ
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	90時間(3単位)
授業コマ数	45コマ(1コマ90分)
授業概要	商企業および工企業の会計処理を問題演習を通じて学習し、総合問題の基礎も学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	簿記2級の基礎的な会計知識と計算技術の習得を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 商業簿記総まとめ①(中級編) 2 商業簿記総まとめ②(中級編) 3 商業簿記総まとめ③(中級編) 4 商業簿記総まとめ④(中級編) 5 商業簿記総まとめ⑤(中級編) 6 商業簿記総まとめ⑥(中級編) 7 商業簿記総まとめ⑦(中級編) 8 商業簿記総まとめ⑧(中級編) 9 商業簿記総まとめ⑨(中級編) 10 商業簿記総まとめ⑩(中級編) 11 商業簿記総まとめ⑪(中級編) 12 商業簿記総まとめ⑫(中級編) 13 工業簿記・原価計算総まとめ①(中級編) 14 工業簿記・原価計算総まとめ②(中級編) 15 工業簿記・原価計算総まとめ③(中級編) 16 工業簿記・原価計算総まとめ④(中級編) 17 工業簿記・原価計算総まとめ⑤(中級編) 18 工業簿記・原価計算総まとめ⑥(中級編) 19 総合問題対策①(商業簿記と工業簿記_中級編) 20 総合問題対策②(商業簿記と工業簿記_中級編) 21 総合問題対策③(商業簿記と工業簿記_中級編) 22 総合問題対策④(商業簿記と工業簿記_中級編) 23 総合問題対策⑤(商業簿記と工業簿記_中級編) 24 総合問題対策⑥(商業簿記と工業簿記_中級編) 25 総合問題対策⑦(商業簿記と工業簿記_中級編) 26 総合問題対策⑧(商業簿記と工業簿記_中級編) 27 総合問題対策⑨(商業簿記と工業簿記_中級編) 28 総合問題演習①(テスト形式_中級編) 29 総合問題演習①(テスト形式_中級編) 30 総合問題演習①(テスト形式_中級編) 31 総合問題演習②(テスト形式_中級編) 32 総合問題演習②(テスト形式_中級編) 33 総合問題演習②(テスト形式_中級編) 34 総合問題演習③(テスト形式_中級編) 35 総合問題演習③(テスト形式_中級編) 36 総合問題演習③(テスト形式_中級編) 37 総合問題演習④(テスト形式_中級編) 38 総合問題演習④(テスト形式_中級編) 39 総合問題演習④(テスト形式_中級編) 40 総合問題演習⑤(テスト形式_中級編) 41 総合問題演習⑤(テスト形式_中級編) 42 総合問題演習⑥(テスト形式_中級編) 43 総合問題演習⑥(テスト形式_中級編) 44 総合問題演習⑦(テスト形式_中級編) 45 総合問題演習⑦(テスト形式_中級編)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	2級簿記総合Ⅲ
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	90時間(3単位)
授業コマ数	45コマ(1コマ90分)
授業概要	株式会社の会計処理を問題演習、総合問題の演習を通じて学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	簿記2級の応用的な会計知識と計算技術の習得を目的とし、かつ、有価証券報告書を読み取ることができることを目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 商業簿記総まとめ①(応用編) 2 商業簿記総まとめ②(応用編) 3 商業簿記総まとめ③(応用編) 4 商業簿記総まとめ④(応用編) 5 商業簿記総まとめ⑤(応用編) 6 商業簿記総まとめ⑥(応用編) 7 商業簿記総まとめ⑦(応用編) 8 商業簿記総まとめ⑧(応用編) 9 商業簿記総まとめ⑨(応用編) 10 商業簿記総まとめ⑩(応用編) 11 商業簿記総まとめ⑪(応用編) 12 商業簿記総まとめ⑫(応用編) 13 工業簿記・原価計算総まとめ①(応用編) 14 工業簿記・原価計算総まとめ②(応用編) 15 工業簿記・原価計算総まとめ③(応用編) 16 工業簿記・原価計算総まとめ④(応用編) 17 工業簿記・原価計算総まとめ⑤(応用編) 18 工業簿記・原価計算総まとめ⑥(応用編) 19 総合問題対策①(商業簿記と工業簿記_応用編) 20 総合問題対策②(商業簿記と工業簿記_応用編) 21 総合問題対策③(商業簿記と工業簿記_応用編) 22 総合問題対策④(商業簿記と工業簿記_応用編) 23 総合問題対策⑤(商業簿記と工業簿記_応用編) 24 総合問題対策⑥(商業簿記と工業簿記_応用編) 25 総合問題対策⑦(商業簿記と工業簿記_応用編) 26 総合問題対策⑧(商業簿記と工業簿記_応用編) 27 総合問題対策⑨(商業簿記と工業簿記_応用編) 28 総合問題演習①(テスト形式_応用編) 29 総合問題演習①(テスト形式_応用編) 30 総合問題演習①(テスト形式_応用編) 31 総合問題演習②(テスト形式_応用編) 32 総合問題演習②(テスト形式_応用編) 33 総合問題演習②(テスト形式_応用編) 34 総合問題演習③(テスト形式_応用編) 35 総合問題演習③(テスト形式_応用編) 36 総合問題演習③(テスト形式_応用編) 37 総合問題演習④(テスト形式_応用編) 38 総合問題演習④(テスト形式_応用編) 39 総合問題演習④(テスト形式_応用編) 40 総合問題演習⑤(テスト形式_応用編) 41 総合問題演習⑤(テスト形式_応用編) 42 総合問題演習⑥(テスト形式_応用編) 43 総合問題演習⑥(テスト形式_応用編) 44 総合問題演習⑦(テスト形式_応用編) 45 総合問題演習⑦(テスト形式_応用編)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	簿記論基礎Ⅱ	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	120時間(4単位)	
授業コマ数	60コマ(1コマ90分)	
授業概要	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	的確な解法で問題を解き、答えを導き出す。	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 簿記の概要Ⅰ①(入門編) 2 簿記の概要Ⅰ②(入門編) 3 簿記の概要Ⅰ③(入門編) 4 簿記の概要Ⅰ④(入門編) 5 現金預金Ⅰ①(入門編) 6 現金預金Ⅰ②(入門編) 7 現金預金Ⅰ③(入門編) 8 債権債務Ⅰ①(入門編) 9 債権債務Ⅰ②(入門編) 10 商品売買Ⅰ①(入門編) 11 商品売買Ⅰ②(入門編) 12 商品売買Ⅰ③(入門編) 13 給料等Ⅰ①(入門編) 14 給料等Ⅰ②(入門編) 15 給料等Ⅰ③(入門編) 16 固定資産Ⅰ①(入門編) 17 固定資産Ⅰ②(入門編) 18 固定資産Ⅰ③(入門編) 19 固定資産Ⅰ④(入門編) 20 固定資産Ⅰ⑤(入門編) 21 固定資産Ⅰ⑥(入門編) 22 固定資産Ⅰ⑦(入門編) 23 固定資産Ⅰ⑧(入門編) 24 固定資産Ⅰ⑨(入門編) 25 固定資産Ⅰ⑩(入門編) 26 ソフトウェアⅠ①(入門編) 27 ソフトウェアⅠ②(入門編) 28 債権債務Ⅰ①(入門編) 29 債権債務Ⅰ②(入門編) 30 債権債務Ⅰ③(入門編)	31 貸倒れⅠ①(入門編) 32 貸倒れⅠ②(入門編) 33 貸倒れⅠ③(入門編) 34 退職給付会計Ⅰ①(入門編) 35 退職給付会計Ⅰ②(入門編) 36 退職給付会計Ⅰ③(入門編) 37 退職給付会計Ⅰ④(入門編) 38 退職給付会計Ⅰ⑤(入門編) 39 退職給付会計Ⅰ⑥(入門編) 40 退職給付会計Ⅰ⑦(入門編) 41 退職給付会計Ⅰ⑧(入門編) 42 税金Ⅰ①(入門編) 43 税金Ⅰ②(入門編) 44 税金Ⅰ③(入門編) 45 税金Ⅰ④(入門編) 46 社債Ⅰ①(入門編) 47 社債Ⅰ②(入門編) 48 社債Ⅰ③(入門編) 49 社債Ⅰ④(入門編) 50 社債Ⅰ⑤(入門編) 51 社債Ⅰ⑥(入門編) 52 純資産会計Ⅰ①(入門編) 53 純資産会計Ⅰ②(入門編) 54 純資産会計Ⅰ③(入門編) 55 純資産会計Ⅰ④(入門編) 56 有価証券Ⅰ①(入門編) 57 有価証券Ⅰ②(入門編) 58 有価証券Ⅰ③(入門編) 59 有価証券Ⅰ④(入門編) 60 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	財務諸表論基礎Ⅱ	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	120時間(4単位)	
授業コマ数	60コマ(1コマ90分)	
授業概要	会計学の入門・基礎を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	的確な解法で問題を解き、答えを導き出す。	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 ガイダンス・財務諸表の基礎(入門・基礎) 2 個別注記表(入門・基礎) 3 現金及び預金(入門・基礎) 4 債権債務(入門・基礎) 5 関係会社概念(入門・基礎) 6 売上原価の算定(入門・基礎) 7 貸倒れ(入門・基礎) 8 給料等(入門・基礎) 9 その他の引当金(入門・基礎) 10 退職給付会計(入門・基礎) 11 有形固定資産(入門・基礎) 12 無形固定資産(入門・基礎) 13 株主資本(入門・基礎) 14 財務諸表論の基礎概念(入門・基礎) 15 売買目的有価証券(入門・基礎) 16 満期保有目的の債券(入門・基礎) 17 子会社株式・関連会社株式(入門・基礎) 18 その他有価証券(入門・基礎) 19 ソフトウェア(入門・基礎) 20 法人税等・追徴還付(入門・基礎) 21 現在価値計算(入門・基礎) 22 社債(入門・基礎) 23 利益剰余金(入門・基礎) 24 自己株式(入門・基礎) 25 配当(入門・基礎) 26 外形基準・租税公課(入門・基礎) 27 源泉所得税、社会保険料(入門・基礎) 28 税効果会計(入門・基礎) 29 税効果注記(入門・基礎) 30 源泉所得税、社会保険料(入門・基礎)	31 貸倒れⅠ①(入門編) 32 貸倒れⅠ②(入門編) 33 貸倒れⅠ③(入門編) 34 退職給付会計Ⅰ①(入門編) 35 退職給付会計Ⅰ②(入門編) 36 退職給付会計Ⅰ③(入門編) 37 退職給付会計Ⅰ④(入門編) 38 退職給付会計Ⅰ⑤(入門編) 39 退職給付会計Ⅰ⑥(入門編) 40 退職給付会計Ⅰ⑦(入門編) 41 退職給付会計Ⅰ⑧(入門編) 42 税金Ⅰ①(入門編) 43 税金Ⅰ②(入門編) 44 税金Ⅰ③(入門編) 45 税金Ⅰ④(入門編) 46 社債Ⅰ①(入門編) 47 社債Ⅰ②(入門編) 48 社債Ⅰ③(入門編) 49 社債Ⅰ④(入門編) 50 社債Ⅰ⑤(入門編) 51 社債Ⅰ⑥(入門編) 52 純資産会計Ⅰ①(入門編) 53 純資産会計Ⅰ②(入門編) 54 純資産会計Ⅰ③(入門編) 55 純資産会計Ⅰ④(入門編) 56 有価証券Ⅰ①(入門編) 57 有価証券Ⅰ②(入門編) 58 有価証券Ⅰ③(入門編) 59 有価証券Ⅰ④(入門編) 60 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	全経簿記上級総合Ⅱ	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
授業時間	120時間(4単位)	
授業コマ数	60コマ(1コマ90分)	
授業概要	大企業を前提とした会計制度を学習し、複雑な会計処理をより詳細に学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	有価証券報告書を理解することはもちろんのこと、会計基準、適用指針、結合会計など、実務に直結する会計の理解を目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 商業簿記・会計学総まとめ①(全経総合編) 2 商業簿記・会計学総まとめ②(全経総合編) 3 商業簿記・会計学総まとめ③(全経総合編) 4 工業簿記・原価計算総まとめ①(全経総合編) 5 工業簿記・原価計算総まとめ②(全経総合編) 6 工業簿記・原価計算総まとめ③(全経総合編) 7 商業簿記・会計学総まとめ④(全経総合編) 8 商業簿記・会計学総まとめ⑤(全経総合編) 9 商業簿記・会計学総まとめ⑥(全経総合編) 10 工業簿記・原価計算総まとめ④(全経総合編) 11 工業簿記・原価計算総まとめ⑤(全経総合編) 12 工業簿記・原価計算総まとめ⑥(全経総合編) 13 商業簿記・会計学総まとめ⑦(全経総合編) 14 商業簿記・会計学総まとめ⑧(全経総合編) 15 商業簿記・会計学総まとめ⑨(全経総合編) 16 工業簿記・原価計算総まとめ⑦(全経総合編) 17 工業簿記・原価計算総まとめ⑧(全経総合編) 18 工業簿記・原価計算総まとめ⑨(全経総合編) 19 商業簿記・会計学総まとめ⑩(全経総合編) 20 商業簿記・会計学総まとめ⑪(全経総合編) 21 商業簿記・会計学総まとめ⑫(全経総合編) 22 工業簿記・原価計算総まとめ⑩(全経総合編) 23 工業簿記・原価計算総まとめ⑪(全経総合編) 24 工業簿記・原価計算総まとめ⑫(全経総合編) 25 商業簿記・会計学総まとめ⑬(全経総合編) 26 商業簿記・会計学総まとめ⑭(全経総合編) 27 商業簿記・会計学総まとめ⑮(全経総合編) 28 工業簿記・原価計算総まとめ⑬(全経総合編) 29 工業簿記・原価計算総まとめ⑭(全経総合編) 30 工業簿記・原価計算総まとめ⑮(全経総合編)	31 総合問題対策①(全経総合編) 32 総合問題対策②(全経総合編) 33 総合問題対策③(全経総合編) 34 総合問題対策④(全経総合編) 35 総合問題対策⑤(全経総合編) 36 総合問題対策⑥(全経総合編) 37 総合問題対策⑦(全経総合編) 38 総合問題対策⑧(全経総合編) 39 総合問題対策⑨(全経総合編) 40 総合問題対策⑩(全経総合編) 41 総合問題対策⑪(全経総合編) 42 総合問題対策⑫(全経総合編) 43 総合問題対策⑬(全経総合編) 44 総合問題対策⑭(全経総合編) 45 総合問題対策⑮(全経総合編) 46 総合問題演習①(テスト形式) 47 総合問題演習①(テスト形式) 48 総合問題演習①(テスト形式) 49 総合問題演習②(テスト形式) 50 総合問題演習②(テスト形式) 51 総合問題演習②(テスト形式) 52 総合問題演習③(テスト形式) 53 総合問題演習③(テスト形式) 54 総合問題演習③(テスト形式) 55 総合問題演習④(テスト形式) 56 総合問題演習④(テスト形式) 57 総合問題演習④(テスト形式) 58 総合問題演習⑤(テスト形式) 59 総合問題演習⑤(テスト形式) 60 総合問題演習⑤(テスト形式)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	1級会計学入門Ⅱ
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	60時間(2単位)
授業コマ数	30コマ(1コマ90分)
授業概要	これまでの学習を総括し、再度、基本的な内容から確認し、基礎的な理論体系、現行基準との整合性を確認する
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	現行基準の基本的な理論体系の理解を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 財務諸表 2 有価証券 3 デリバティブ取引・ヘッジ会計 4 有形固定資産 5 割引現在価値 6 リース取引 7 固定資産の減損 8 研究開発費とソフトウェア 9 繰延資産、社債 10 引当金 11 退職給付 12 資産除去債務、純資産 13 新株予約権と新株予約権付社債、ストック・オプション 14 税効果会計 15 外貨建取引 16 商品売買等 17 工事契約 18 本支店会計 19 連結財務諸表総論 20 資本連結 21 成果連結 22 持分法 23 連結税効果会計 24 包括利益 25 在外子会社 26 企業結合 27 事業分離 28 キャッシュフロー計算書 29 連結キャッシュフロー計算書 30 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	1級原価計算入門Ⅱ	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	60時間(2単位)	
授業コマ数	30コマ(1コマ90分)	
授業概要	これまでの学習を総括し、再度、基本的な内容から確認し、工業簿記および原価計算の関係性を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	工企業を前提とする基本的な会計処理の習得を目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	工業簿記と原価計算
	2	費目別計算①
	3	費目別計算②
	4	部門別計算①
	5	部門別計算②
	6	個別原価計算①
	7	個別原価計算②
	8	総合原価計算①
	9	総合原価計算②
	10	総合原価計算③
	11	標準原価計算①
	12	標準原価計算②
	13	標準原価計算③
	14	標準原価計算④
	15	標準原価計算⑤
	16	直接原価計算
	17	短期利益計画
	18	予算管理①
	19	予算管理②
	20	意思決定会計①
	21	意思決定会計②
	22	意思決定会計③
	23	意思決定会計④
	24	意思決定会計⑤
	25	意思決定会計⑥
	26	意思決定会計⑦
	27	意思決定会計⑧
	28	戦略的原価計算①
	29	戦略的原価計算②
	30	確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	消費税法速習入門 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	30時間(1単位)
授業コマ数	15コマ(1コマ90分)
授業概要	売上・仕入取引についての消費税の可否区分の考え方を学習する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	「消費税法」の法律等の知識習得を目的とする。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 課税の対象①(入門編) 3 課税の対象②(入門編) 4 非課税①(入門編) 5 非課税②(入門編) 6 輸出免税等①(入門編) 7 輸出免税等②(入門編) 8 資産の譲渡等の時期(入門編) 9 控除対象仕入税額①(入門編) 10 控除対象仕入税額②(入門編) 11 売上げに係る対価の返還等(入門編) 12 貸倒れが生じた場合(入門編) 13 課税仕入れの範囲①(入門編) 14 課税仕入れの範囲②(入門編) 15 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト(理論)100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	<p>成績評価基準</p> <p>学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。</p>

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	消費税法速習基礎 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	30時間(1単位)
授業コマ数	15コマ(1コマ90分)
授業概要	仕入税額控除及び国境を越えた役務の提供を中心とした考え方を学習する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	「消費税法」の法律等の知識習得を目的とする。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 課税仕入れ等の時期①(入門編) 2 課税仕入れ等の時期②(入門編) 3 課税売上割合①(入門編) 4 課税売上割合②(入門編) 5 課税期間における課税売上高①(入門編) 6 課税期間における課税売上高②(入門編) 7 課税売上割合に準ずる割合①(入門編) 8 課税売上割合に準ずる割合②(入門編) 9 仕入れに係る対価の返還等(入門編) 10 納税義務の免除(入門編) 11 国境を越えた役務の提供①(入門編) 12 国境を越えた役務の提供②(入門編) 13 国境を越えた役務の提供③(入門編) 14 中間申告に係る納付税額の計算(入門編) 15 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト(理論)100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	<p>成績評価基準</p> <p>学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。</p>

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	消費税法速習応用 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	60時間(2単位)
授業コマ数	30コマ(1コマ90分)
授業概要	納税義務の有無の判定や、仕入税額控除の特例の考え方を学習する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	「消費税法」の法律等の知識習得を目的とする。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 課税仕入れ等の分類①(入門編) 2 課税仕入れ等の分類②(入門編) 3 課税仕入れ等の分類③(入門編) 4 非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額控除の特例(入門編) 5 調整対象固定資産に係る仕入税額控除の調整①(入門編) 6 調整対象固定資産に係る仕入税額控除の調整②(入門編) 7 納税義務の免除の特例①(入門編) 8 納税義務の免除の特例②(入門編) 9 納税義務の免除の特例③(入門編) 10 納税義務の免除の特例④(入門編) 11 納税義務の免除の特例⑤(入門編) 12 合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算①(入門編) 13 合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算②(入門編) 14 棚卸資産に係る仕入税額控除の調整・特殊項目②(入門編) 15 課税標準①(入門編) 16 課税標準②(入門編) 17 簡易課税制度①(入門編) 18 簡易課税制度②(入門編) 19 簡易課税制度③(入門編) 20 簡易課税制度④(入門編) 21 軽減税率①(入門編) 22 軽減税率②(入門編) 23 旧税率に関する経過措置①(入門編) 24 旧税率に関する経過措置②(入門編) 25 複数税率の場合の計算①(入門編) 26 複数税率の場合の計算②(入門編) 27 国等に対する特例①(入門編) 28 国等に対する特例②(入門編) 29 特殊項目③(税抜経理方式)(入門編) 30 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト(理論)100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	国税徴収法基礎 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	60時間(2単位)
授業コマ数	30コマ(1コマ90分)
授業概要	納税義務の確定から滞納までの流れを中心的に学ぶ。
授業の進め方	テキストを中心とした講義により概要を知る
達成目標	国税徴収法の解釈を学び、入門問題を読解できるようにする。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 国税徴収法の目的(入門) 2 納税義務の成立及び確定・納期限から滞納処分まで(入門) 3 強制換価手続(入門) 4 担保の種類(入門) 5 滞納処分の概要(入門) 6 国税に優先する権利(入門) 7 国税相互間の優先関係(入門) 8 財産の調査(入門) 9 最優先される被担保債権(入門) 10 法定納期限等(期限内申告に係る国税)(入門) 11 法定納期限等以前の抵当権及び質権(入門) 12 不動産賃貸の先取特権等(入門) 13 法定納期限等(期限後・修正・更正・決定・予定納税・源泉徴収)(入門) 14 譲受前にある担保権(入門) 15 担保権付財産が譲渡された場合の国税の徴収(入門) 16 差押の制限等、解除(入門) 17 差押の共通手続(入門) 18 第三者からの差押換え(入門) 19 差押換え(換価申立ての細部)(入門) 20 相続人からの差押換え(入門) 21 動産又は有価証券の差押え(入門) 22 第三者が占有する動産等の差押手続(入門) 23 引渡命令を受けた第三者等の権利の保護(入門) 24 国税徴収法第26条の計算(入門) 25 債権の差押え(入門) 26 不動産等の差押え(入門) 27 第三債務者等がない無体財産権等の差押え(入門) 28 第三債務者等がある無体財産権等の差押え(入門) 29 国税徴収法第24条(譲渡担保)(入門) 30 確認テスト(入門)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	ビジネス実務入門 I
実務家教員	○
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	30時間(1単位)
授業コマ数	15コマ(1コマ90分)
授業概要	働くうえで備えておくべき基本的な心構えや一般知識を理解する
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	基本的な職場常識・職務の知識を身に付ける
教科書	テキスト及び参考書
特記	企業人としてオフィスワーク経験のある教員が、企業内での基本的な心構え、ビジネスマナーについて教育を行う科目
授業計画	1 職場での心構え① 2 職場での心構え② 3 職場に必要な能力① 4 職場に必要な能力② 5 職場の役割と機能① 6 職場の役割と機能② 7 秘書の職務① 8 秘書の職務② 9 企業の基礎知識① 10 企業の基礎知識② 11 企業組織の活動① 12 企業組織の活動② 13 社会常識① 14 社会常識② 15 社会常識③
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	ビジネス実務応用 I
実務家教員	○
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	60時間(2単位)
授業コマ数	30コマ(1コマ90分)
授業概要	職場でのマナー・技能を理解する
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	職場での電話対応・来客対応、ビジネス文書作成の知識を身に付ける
教科書	テキスト及び参考書
特記	企業人としてオフィスワークの経験のある教員が、企業内での基本的な心構え、ビジネスマナーについてロールプレイングを中心に教育を行う科目
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人間関係と話し方・聞き方① 2 人間関係と話し方・聞き方② 3 人間関係と話し方・聞き方③ 4 人間関係と話し方・聞き方④ 5 敬語と接遇用語① 6 敬語と接遇用語② 7 敬語と接遇用語③ 8 敬語と接遇用語④ 9 電話対応① 10 電話対応② 11 電話対応③ 12 電話対応④ 13 来客対応① 14 来客対応② 15 来客対応③ 16 交際業務① 17 交際業務② 18 ビジネス文書の作成① 19 ビジネス文書の作成② 20 ビジネス文書の作成③ 21 ビジネス文書の作成④ 22 文書・資料管理① 23 文書・資料管理② 24 文書・資料管理③ 25 日程管理① 26 日程管理② 27 日程管理③ 28 日程管理④ 29 環境整備① 30 環境整備②
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点～89点「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	電卓技能
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う
授業の進め方	問題集に基づき、指定された範囲の問題を電卓にて計算する
達成目標	電卓技能検定1・2級に合格する
教科書	検定対策テキストおよび問題集
特記	
授業計画	1 小数点以下の取り扱い諸注意 2 電卓実践演習1 3 電卓実践演習2 4 電卓実践演習3 5 電卓実践演習4 6 電卓実践演習5 7 電卓実践演習6 8 電卓実践演習7 9 電卓実践演習8 10 電卓実践演習9 11 電卓実践演習10 12 電卓実践演習11 13 電卓実践演習12 14 電卓実践演習13 15 電卓実践演習14 16 電卓実践演習15 17 電卓実践演習16 18 電卓実践演習17 19 電卓実践演習18 20 電卓実践演習19
成績評価方法 (試験実施方法)	模擬試験100% 模擬試験における得点で評価
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	一般常識
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語など国語分野に関する知識まで身につける
授業の進め方	問題集に基づき、指定された範囲の確認テストを実施する
達成目標	日本ビジネス技能検定協会漢字検定1級に合格する
教科書	問題集・プリント
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 訓読み・送り仮名・熟語1 2 訓読み・送り仮名・熟語2 3 訓読み・送り仮名・熟語3 4 同音異義・異字同訓1 5 同音異義・異字同訓2 6 誤字訂正、類義語・反対語1 7 誤字訂正、類義語・反対語2 8 漢字の意味・使い方1 9 漢字の意味・使い方2 10 漢字の意味・使い方3 11 ことわざ・故事成語・慣用句 1 12 ことわざ・故事成語・慣用句 2 13 ことわざ・故事成語・慣用句 3 14 特殊な漢字の読み書き1 15 特殊な漢字の読み書き2 16 特殊な漢字の読み書き3 17 項目別模擬試験1 18 項目別模擬試験2 19 直前模擬試験1 20 直前模擬試験2
成績評価方法 (試験実施方法)	模擬試験100% 模擬試験における得点で評価
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	簿記論 I	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	2学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	160時間	
授業コマ数	80コマ	
授業概要	特殊商品売買・金融商品等の一連の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	的確な解法で問題を解き、答えを導き出す。	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 簿記の概要 I ①(入門編) 2 簿記の概要 I ②(入門編) 3 簿記の概要 I ③(入門編) 4 簿記の概要 I ④(入門編) 5 簿記の概要 I ⑤(入門編) 6 現金預金 I ①(入門編) 7 現金預金 I ②(入門編) 8 現金預金 I ③(入門編) 9 現金預金 I ④(入門編) 10 債権債務 I ①(入門編) 11 債権債務 I ②(入門編) 12 債権債務 I ③(入門編) 13 商品売買 I ①(入門編) 14 商品売買 I ②(入門編) 15 商品売買 I ③(入門編) 16 商品売買 I ④(入門編) 17 商品売買 I ⑤(入門編) 18 給料等 I ①(入門編) 19 給料等 I ②(入門編) 20 給料等 I ③(入門編) 21 給料等 I ④(入門編) 22 固定資産 I ①(入門編) 23 固定資産 I ②(入門編) 24 固定資産 I ③(入門編) 25 固定資産 I ④(入門編) 26 固定資産 I ⑤(入門編) 27 固定資産 I ⑥(入門編) 28 固定資産 I ⑦(入門編) 29 固定資産 I ⑧(入門編) 30 固定資産 I ⑨(入門編) 31 固定資産 I ⑩(入門編) 32 固定資産 I ⑪(入門編) 33 固定資産 I ⑫(入門編) 34 ソフトウェア I ①(入門編) 35 ソフトウェア I ②(入門編) 36 ソフトウェア I ③(入門編) 37 ソフトウェア I ④(入門編) 38 債権債務 I ①(入門編) 39 債権債務 I ②(入門編) 40 債権債務 I ③(入門編)	41 債権債務 I ④(入門編) 42 貸倒れ I ①(入門編) 43 貸倒れ I ②(入門編) 44 貸倒れ I ③(入門編) 45 貸倒れ I ④(入門編) 46 貸倒れ I ⑤(入門編) 47 退職給付会計 I ①(入門編) 48 退職給付会計 I ②(入門編) 49 退職給付会計 I ③(入門編) 50 退職給付会計 I ④(入門編) 51 退職給付会計 I ⑤(入門編) 52 退職給付会計 I ⑥(入門編) 53 退職給付会計 I ⑦(入門編) 54 退職給付会計 I ⑧(入門編) 55 退職給付会計 I ⑨(入門編) 56 退職給付会計 I ⑩(入門編) 57 税金 I ①(入門編) 58 税金 I ②(入門編) 59 税金 I ③(入門編) 60 税金 I ④(入門編) 61 税金 I ⑤(入門編) 62 社債 I ①(入門編) 63 社債 I ②(入門編) 64 社債 I ③(入門編) 65 社債 I ④(入門編) 66 社債 I ⑤(入門編) 67 社債 I ⑥(入門編) 68 社債 I ⑦(入門編) 69 純資産会計 I ①(入門編) 70 純資産会計 I ②(入門編) 71 純資産会計 I ③(入門編) 72 純資産会計 I ④(入門編) 73 純資産会計 I ⑤(入門編) 74 純資産会計 I ⑥(入門編) 75 有価証券 I ①(入門編) 76 有価証券 I ②(入門編) 77 有価証券 I ③(入門編) 78 有価証券 I ④(入門編) 79 有価証券 I ⑤(入門編) 80 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	財務諸表論 I	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	2学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	160時間	
授業コマ数	80コマ	
授業概要	会計学の入門・基礎を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	的確な解法で問題を解き、答えを導き出す。	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 ガイダンス・財務諸表の基礎(入門・基礎) 2 個別注記表(入門・基礎) 3 現金及び預金(入門・基礎) 4 債権債務(入門・基礎) 5 関係会社概念(入門・基礎) 6 売上原価の算定(入門・基礎) 7 貸倒れ(入門・基礎) 8 給料等(入門・基礎) 9 その他の引当金(入門・基礎) 10 退職給付会計(入門・基礎) 11 有形固定資産(入門・基礎) 12 無形固定資産(入門・基礎) 13 株主資本(入門・基礎) 14 財務諸表論の基礎概念(入門・基礎) 15 売買目的有価証券(入門・基礎) 16 満期保有目的の債券(入門・基礎) 17 子会社株式・関連会社株式(入門・基礎) 18 その他有価証券(入門・基礎) 19 ソフトウェア(入門・基礎) 20 法人税等・追徴還付(入門・基礎) 21 現在価値計算(入門・基礎) 22 社債(入門・基礎) 23 利益剰余金(入門・基礎) 24 自己株式(入門・基礎) 25 配当(入門・基礎) 26 外形基準、租税公課(入門・基礎) 27 源泉所得税、社会保険料(入門・基礎) 28 税効果会計(入門・基礎) 29 税効果注記(入門・基礎) 30 源泉所得税、社会保険料(入門・基礎) 31 株主資本等変動計算書(入門・基礎) 32 減損会計(入門・基礎) 33 配当を受けた株主の処理(入門・基礎) 34 圧縮記帳(入門・基礎) 35 外貨建取引(入門・基礎) 36 退職給付会計簡便法(入門・基礎) 37 繰延資産(入門・基礎) 38 為替予約(入門・基礎) 39 為替予約(入門・基礎)② 40 仕入・売上げの計上基準(入門・基礎)	41 消費税等(入門・基礎) 42 消費税等(入門・基礎)② 43 他勘定振替(入門・基礎) 44 外貨建有価証券(入門・基礎) 45 外貨建有価証券(入門・基礎)② 46 外貨建有価証券(入門・基礎)③ 47 リース会計(入門・基礎) 48 リース会計(入門・基礎)② 49 リース会計(入門・基礎)③ 50 証券投資信託(入門・基礎) 51 ゴルフ会員権(入門・基礎) 52 売価還元法(入門・基礎) 53 売価還元法(入門・基礎)② 54 製造業会計(入門・基礎) 55 製造業会計(入門・基礎)② 56 研究開発費(入門・基礎) 57 研究開発費(入門・基礎)② 58 新株予約権(入門・基礎) 59 新株予約権(入門・基礎)② 60 キャッシュ・フロー計算書(入門・基礎) 61 キャッシュ・フロー計算書(入門・基礎)② 62 損益計算書総論(入門・基礎) 63 損益計算書総論(入門・基礎)② 64 貸借対照表総論(入門・基礎) 65 貸借対照表総論(入門・基礎)② 66 資産総論(入門・基礎) 67 資産総論(入門・基礎)② 68 棚卸資産に関する会計基準(入門・基礎) 69 棚卸資産に関する会計基準(入門・基礎)② 70 連続意見書(入門・基礎) 71 連続意見書(入門・基礎)② 72 引当金(入門・基礎) 73 引当金(入門・基礎)② 74 会計観(入門・基礎) 75 会計観(入門・基礎)② 76 金融商品(入門・基礎) 77 金融商品(入門・基礎)② 78 収益性の低下(入門・基礎) 79 収益性の低下(入門・基礎)② 80 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	消費税法 I	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	2学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	160時間	
授業コマ数	80コマ	
授業概要	売上・仕入取引についての消費税の可否区分、納税義務の有無の判定や、仕入税額控除の特例の考え方を学習する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	「消費税法」の法律等の知識習得を目的とする。	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 ガイダンス 2 課税の対象①(入門編) 3 課税の対象②(入門編) 4 課税の対象③(入門編) 5 課税の対象④(入門編) 6 非課税①(入門編) 7 非課税②(入門編) 8 非課税③(入門編) 9 非課税④(入門編) 10 輸出免税等①(入門編) 11 輸出免税等②(入門編) 12 輸出免税等③(入門編) 13 輸出免税等④(入門編) 14 輸出免税等⑤(入門編) 15 資産の譲渡等の時期(入門編) 16 控除対象仕入税額①(入門編) 17 控除対象仕入税額②(入門編) 18 控除対象仕入税額③(入門編) 19 控除対象仕入税額④(入門編) 20 売上げに係る対価の返還等(入門編) 21 貸倒れが生じた場合(入門編) 22 課税仕入れの範囲①(入門編) 23 課税仕入れの範囲②(入門編) 24 課税仕入れの範囲③(入門編) 25 課税仕入れの範囲④(入門編) 26 課税仕入れの範囲⑤(入門編) 27 課税仕入れ等の時期①(入門編) 28 課税仕入れ等の時期②(入門編) 29 課税仕入れ等の時期③(入門編) 30 課税仕入れ等の時期④(入門編) 31 課税仕入れ等の時期⑤(入門編) 32 課税売上割合①(入門編) 33 課税売上割合②(入門編) 34 課税売上割合③(入門編) 35 課税売上割合④(入門編) 36 課税売上割合⑤(入門編) 37 課税期間における課税売上高①(入門編) 38 課税期間における課税売上高②(入門編) 39 課税期間における課税売上高③(入門編) 40 課税期間における課税売上高④(入門編)	41 課税売上割合に準ずる割合①(入門編) 42 課税売上割合に準ずる割合②(入門編) 43 課税売上割合に準ずる割合③(入門編) 44 課税売上割合に準ずる割合④(入門編) 45 仕入れに係る対価の返還等(入門編) 46 納税義務の免除(入門編) 47 国境を越えた役務の提供①(入門編) 48 国境を越えた役務の提供②(入門編) 49 国境を越えた役務の提供③(入門編) 50 中間申告に係る納付税額の計算(入門編) 51 課税仕入れ等の分類①(入門編) 52 課税仕入れ等の分類②(入門編) 53 課税仕入れ等の分類③(入門編) 54 非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額控除の特例(入門編) 55 調整対象固定資産に係る仕入税額控除の調整①(入門編) 56 調整対象固定資産に係る仕入税額控除の調整②(入門編) 57 納税義務の免除の特例①(入門編) 58 納税義務の免除の特例②(入門編) 59 納税義務の免除の特例③(入門編) 60 納税義務の免除の特例④(入門編) 61 納税義務の免除の特例⑤(入門編) 62 合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算①(入門編) 63 合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算②(入門編) 64 棚卸資産に係る仕入税額控除の調整・特殊項目②(入門編) 65 課税標準①(入門編) 66 課税標準②(入門編) 67 簡易課税制度①(入門編) 68 簡易課税制度②(入門編) 69 簡易課税制度③(入門編) 70 簡易課税制度④(入門編) 71 軽減税率①(入門編) 72 軽減税率②(入門編) 73 旧税率に関する経過措置①(入門編) 74 旧税率に関する経過措置②(入門編) 75 複数税率の場合の計算①(入門編) 76 複数税率の場合の計算②(入門編) 77 国等に対する特例①(入門編) 78 国等に対する特例②(入門編) 79 特殊項目③(税抜経理方式)(入門編) 80 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	相続税法 I	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	2学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	160時間	
授業コマ数	80コマ	
授業概要	相続税および贈与税を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	相続税および贈与税を理解する	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 ガイダンス 2 相続税法の概要(基礎) 3 相続税法と民法(基礎) 4 相続人、代襲相続(基礎) 5 養子の子の取扱い(基礎) 6 相続の承認と放棄(基礎) 7 相続分(法定相続分、代襲相続分)(基礎) 8 遺言による財産の取得(基礎) 9 贈与税の概要(基礎)、贈与税の納税義務者(基礎) 10 弔慰金等(基礎)、債務控除(基礎) 11 相続時精算課税制度の概要及び贈与税額の計算(基礎) 12 相続時精算課税適用財産(基礎)、生前贈与加算相続税の総額(基礎) 13 算出相続税額の計算(基礎)、相続税額の加算(基礎) 14 贈与税額控除(暦年)(基礎)、配偶者の税額軽減(基礎) 15 未成年者控除(基礎)、障害者控除(基礎) 16 確認テスト①(理論) 17 特定納税義務者(基礎) 18 特定納税義務者の債務控除(基礎)、特定納税義務者の障害者控除(基礎) 19 贈与税額控除(精算)(基礎) 20 自用地(評価方式・路線価方式・倍率方式)(基礎) 21 自用家屋(基礎)、家屋と構造上一体となっている設備(基礎) 22 特別養子制度(基礎)、生命保険契約に関する権利(基礎) 23 被保険者でない保険契約者が死亡した場合(基礎) 24 法定相続人の数(基礎)、本来の財産(基礎) 25 自用地(路線に2以上の路線価が付されている宅地)(基礎) 26 地区区分の異なる宅地(基礎) 27 側方路線等に宅地の一部が接している場合(基礎) 28 普通借地権(自用借地権)(基礎)、貸宅地(基礎)、貸家建付地(基礎) 29 貸家建付借地権(基礎)、貸家(基礎) 30 一般動産(基礎)、たな卸商品等(基礎) 31 書画骨とう品(基礎)、預貯金(基礎) 32 上場株式(基礎)、構築物(基礎) 33 貸付金債権等(基礎)、受取手形等(基礎) 34 間口が狭小な宅地等(基礎)、角切り宅地の間口距離(基礎) 35 確認テスト②(理論) 36 使用貸借により借り受けた宅地等(基礎) 37 使用貸借により貸し付けられた宅地等(基礎) 38 使用貸借により貸し付けられた家屋(基礎) 39 小規模宅地等の減額①(基礎) 40 小規模宅地等の減額②(基礎)	41 小規模宅地等の減額③(基礎) 42 小規模宅地等の減額④(基礎) 43 小規模宅地等の減額⑤(基礎) 44 小規模宅地等の減額⑥(基礎) 45 確認テスト③(理論) 46 取引相場のない株式①(基礎) 47 取引相場のない株式②(基礎) 48 取引相場のない株式③(基礎) 49 取引相場のない株式④(基礎) 50 取引相場のない株式⑤(基礎) 51 取引相場のない株式⑥(基礎) 52 取引相場のない株式⑦(基礎) 53 取引相場のない株式⑧(基礎) 54 取引相場のない株式⑨(基礎) 55 取引相場のない株式⑩(基礎) 56 取引相場のない株式⑪(基礎) 57 取引相場のない株式⑫(基礎) 58 取引相場のない株式⑬(基礎) 59 利用区分が異なる建物の敷地のように供されている宅地等(基礎) 60 相当の地代を受け取っている場合の貸宅地①(基礎) 61 相当の地代を受け取っている場合の貸宅地②(基礎) 62 相当の地代を受け取っている場合の貸宅地③(基礎) 63 相当の地代を支払っている場合の借地権①(基礎) 64 相当の地代を支払っている場合の借地権②(基礎) 65 土地の無償返還に関する届出書が提出されている場合の宅地①(基礎) 66 土地の無償返還に関する届出書が提出されている場合の宅地②(基礎) 67 利用区分が異なる建物(基礎)、建築中の家屋①(基礎) 68 利用区分が異なる建物(基礎)、建築中の家屋②(基礎) 69 不整形地(基礎)、地積規模の大きな宅地①(基礎) 70 不整形地(基礎)、地積規模の大きな宅地②(基礎) 71 がけ地等を有する宅地(基礎)、旗竿状の宅地等①(基礎) 72 がけ地等を有する宅地(基礎)、旗竿状の宅地等②(基礎) 73 がけ地等を有する宅地(基礎)、旗竿状の宅地等③(基礎) 74 容積率の異なる宅地①(基礎) 75 容積率の異なる宅地②(基礎) 76 容積率の異なる宅地③(基礎) 77 都市計画道路予定地の区域内にある宅地①(基礎) 78 都市計画道路予定地の区域内にある宅地②(基礎) 79 都市計画道路予定地の区域内にある宅地③(基礎) 80 確認テスト④(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	法人税法 I	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	2学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	160時間	
授業コマ数	80コマ	
授業概要	法人税法の計算体系、仕組みの理解を目的とする。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	基本的な部分の学習を行い、解法を習得する。	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 ガイダンス(基礎) 2 納税義務者(基礎) 3 課税所得の範囲(基礎) 4 交際費等の損金不算入 I (基礎) 5 減価償却 I (基礎) 6 減価償却 II (基礎) 7 減価償却 III (基礎) 8 受取配当等の益金不算入 I (基礎) 9 寄附金の損金不算入 I (基礎) 10 貸倒損失 I (基礎) 11 貸倒損失 II (基礎) 12 貸倒引当金 I (基礎) 13 貸倒引当金 II (基礎) 14 欠損金 I (基礎) 15 欠損金 II (基礎) 16 外貨建取引 I (基礎) 17 外貨建取引 II (基礎) 18 有価証券 I (基礎) 19 有価証券 II (基礎) 20 収用等 I (基礎) 21 収用等 II (基礎) 22 所得税額控除 I (基礎) 23 所得税額控除 II (基礎) 24 国庫補助金等 I (基礎) 25 国庫補助金等 II (基礎) 26 別表五(-)の作成 I (基礎) 27 別表五(-)の作成 II (基礎) 28 圧縮記帳 I (基礎) 29 圧縮記帳 II (基礎) 30 役員判定 I (基礎) 31 役員判定 II (基礎) 32 役員給与 I (基礎) 33 役員給与 II (基礎) 34 使用人給与 I (基礎) 35 使用人給与 II (基礎) 36 特定資産の買換え I (基礎) 37 特定資産の買換え II (基礎) 38 外国税額控除 I (基礎) 39 外国税額控除 II (基礎) 40 外国子会社から受ける配当等の益金不算入 I (基礎)	41 外国子会社から受ける配当等の益金不算入 II (基礎) 42 みなし配当金 I (基礎) 43 みなし配当金 II (基礎) 44 資本等取引 I (基礎) 45 資本等取引 II (基礎) 46 交換差益 I (基礎) 47 交換差益 II (基礎) 48 交換差益 III (基礎) 49 交換差益 IV (基礎) 50 交換差益 V (基礎) 51 別表五(二) I (基礎) 52 別表五(二) II (基礎) 53 別表五(二) III (基礎) 54 別表五(二) IV (基礎) 55 別表五(二) V (基礎) 56 リース取引 I (基礎) 57 リース取引 II (基礎) 58 リース取引 III (基礎) 59 リース取引 IV (基礎) 60 リース取引 V (基礎) 61 繰延資産 I (基礎) 62 繰延資産 II (基礎) 63 繰延資産 III (基礎) 64 繰延資産 IV (基礎) 65 繰延資産 V (基礎) 66 確定決算型 I (基礎) 67 確定決算型 II (基礎) 68 確定決算型 III (基礎) 69 確定決算型 IV (基礎) 70 確定決算型 V (基礎) 71 グループ法人税制 I (基礎) 72 グループ法人税制 II (基礎) 73 グループ法人税制 III (基礎) 74 グループ法人税制 IV (基礎) 75 資産の評価損益 I (基礎) 76 資産の評価損益 II (基礎) 77 資産の評価損益 III (基礎) 78 保険料 I (基礎) 79 保険料 II (基礎) 80 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	簿記論Ⅱ
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	2学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	特殊商品売買・金融商品等の一連の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	的確な解法で問題を解き、答えを導き出す。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 税効果会計Ⅰ①(入門編) 2 税効果会計Ⅰ②(入門編) 3 現在価値計算Ⅰ①(入門編) 4 現在価値計算Ⅰ②(入門編) 5 保険金Ⅰ①(入門編) 6 保険金Ⅰ②(入門編) 7 新株予約権付社債Ⅰ①(入門編) 8 新株予約権付社債Ⅰ②(入門編) 9 減損会計Ⅰ①(入門編) 10 減損会計Ⅰ②(入門編) 11 資産除去債務Ⅰ①(入門編) 12 資産除去債務Ⅰ②(入門編) 13 外貨建会計Ⅰ①(入門編) 14 外貨建会計Ⅰ②(入門編) 15 リース会計Ⅰ①(入門編) 16 試用販売Ⅰ①(入門編) 17 割賦販売Ⅰ①(入門編) 18 未着品販売Ⅰ(入門編) 19 委託販売・受託販売Ⅰ(入門編) 20 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト第1問の得点100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	財務諸表論Ⅱ
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	会社法入門・基礎を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	的確な解法で問題を解き、答えを導き出す。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 会計上の変更及び誤謬の訂正①(入門・基礎) 2 会計上の変更及び誤謬の訂正②(入門・基礎) 3 分配可能額①(入門・基礎) 4 スtock・オプション①(入門・基礎) 5 セール&リースバック①(入門・基礎) 6 財務諸表等規則①(入門・基礎) 7 財務諸表等規則②(入門・基礎) 8 負債①(入門・基礎) 9 純資産会計①(入門・基礎) 10 純資産会計②(入門・基礎) 11 企業結合会計①(入門・基礎) 12 企業結合会計②(入門・基礎) 13 事業分離会計①(入門・基礎) 14 事業分離会計②(入門・基礎) 15 四半期財務諸表①(入門・基礎) 16 ヘッジ会計①(入門・基礎) 17 ヘッジ会計②(入門・基礎) 18 包括利益①(入門・基礎) 19 包括利益②(入門・基礎) 20 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト(理論)100%
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	消費税法Ⅱ
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	2学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	売上取引を中心とした消費税の可否区分の処理方法を学習する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	「消費税法」「租税特別措置法」の法律等の知識習得を目的とする。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 課税の対象(概要編) 2 課税の対象①(初級編) 3 課税の対象②(初級編) 4 課税の対象③(初級編) 5 課税の対象④(初級編) 6 課税の対象⑤(初級編) 7 非課税①(初級編) 8 非課税②(初級編) 9 非課税③(初級編) 10 非課税④(初級編) 11 非課税⑤(初級編) 12 輸出免税等①(初級編) 13 輸出免税等②(初級編) 14 輸出免税等③(初級編) 15 輸出免税等④(初級編) 16 輸出免税等⑤(初級編) 17 資産の譲渡等の時期①(初級編) 18 資産の譲渡等の時期②(初級編) 19 資産の譲渡等の時期③(初級編) 20 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト(理論)100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	相続税法Ⅱ
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	2学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	相続税、贈与税の知識を網羅し文章問題を解答する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	相続税法に基づいた基礎的な問題を解き、答えを導き出す
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 私道の用に供されている宅地(中級)、セットバックを必要とする宅地(中級) 2 上場株式(権利落)(中級)、株式の割り当てを受ける権利(中級) 3 宅地等の評価単位(中級)、契約者貸付金等がある場合の保険金(中級) 4 純農地、中間農地、純山林、中間山林(中級) 5 市街地周辺農地、市街地農地、市街地山林(中級) 6 立木、立木の評価減(中級)、配当期待権(中級) 7 贈与税が課税される場合(中級)、相続税が課税される場合(中級) 8 負担付遺贈・贈与(中級)、贈与税の非課税財産(中級) 9 直系尊属から教育資金の一括贈与を受けた場合の贈与税の非課税(中級) 10 住宅取得等資金の贈与を受けた場合の相続時精算課税の特例(中級)① 11 住宅取得等資金の贈与を受けた場合の相続時精算課税の特例(中級)② 12 直系尊属から住宅取得等資金の贈与を受けた場合の贈与税の非課税(中級)① 13 直系尊属から住宅取得等資金の贈与を受けた場合の贈与税の非課税(中級)② 14 証券投資信託受益証券(中級)、ゴルフ会員権(中級)① 15 証券投資信託受益証券(中級)、ゴルフ会員権(中級)② 16 不動産投資信託証券(中級)、措法70の非課税(中級)① 17 不動産投資信託証券(中級)、措法71の非課税(中級)② 18 権利義務の承継(中級)、贈与税の配偶者控除(中級)① 19 権利義務の承継(中級)、贈与税の配偶者控除(中級)② 20 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト(理論)100%
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	法人税法Ⅱ
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	2学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	組織再編税制を中心とした法人税法の体系を学ぶ。
授業の進め方	テキストを中心とした講義により概要を知る
達成目標	各項目の応用的な部分を学び、各体系の解法を習得する。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 設立事業年度(中級) 2 組織再編税制(中級) 3 工事の請負(中級) 4 修正申告(中級) 5 税効果会計(中級) 6 賃上げ・投資促進税制(中級) 7 スピンオフ税制(中級) 8 特定同族会社の特別税率(中級) 9 適用除外事業者(中級) 10 地方法人税①(中級) 11 地方法人税②(中級) 12 外国子会社配当①(中級) 13 外国子会社配当②(中級) 14 借地権等①(中級) 15 借地権等②(中級) 16 償還差損益①(中級) 17 償還差損益②(中級) 18 未収還付税金①(中級) 19 未収還付税金②(中級) 20 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト(理論) 100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	簿記論Ⅲ	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	160時間	
授業コマ数	80コマ	
授業概要	特殊商品売買・金融商品等の一連の応用知識及び論理的な思考を基に、文書問題を回答する	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	的確な解法で問題を解き、答えを導き出す	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 簿記の概要Ⅰ①(中級・応用編) 2 簿記の概要Ⅰ②(中級・応用編) 3 簿記の概要Ⅰ③(中級・応用編) 4 簿記の概要Ⅰ④(中級・応用編) 5 簿記の概要Ⅰ⑤(中級・応用編) 6 現金預金Ⅰ①(中級・応用編) 7 現金預金Ⅰ②(中級・応用編) 8 現金預金Ⅰ③(中級・応用編) 9 現金預金Ⅰ④(中級・応用編) 10 債権債務Ⅰ①(中級・応用編) 11 債権債務Ⅰ②(中級・応用編) 12 債権債務Ⅰ③(中級・応用編) 13 商品売買Ⅰ①(中級・応用編) 14 商品売買Ⅰ②(中級・応用編) 15 商品売買Ⅰ③(中級・応用編) 16 商品売買Ⅰ④(中級・応用編) 17 商品売買Ⅰ⑤(中級・応用編) 18 給料等Ⅰ①(中級・応用編) 19 給料等Ⅰ②(中級・応用編) 20 給料等Ⅰ③(中級・応用編) 21 給料等Ⅰ④(中級・応用編) 22 固定資産Ⅰ①(中級・応用編) 23 固定資産Ⅰ②(中級・応用編) 24 固定資産Ⅰ③(中級・応用編) 25 固定資産Ⅰ④(中級・応用編) 26 固定資産Ⅰ⑤(中級・応用編) 27 固定資産Ⅰ⑥(中級・応用編) 28 固定資産Ⅰ⑦(中級・応用編) 29 固定資産Ⅰ⑧(中級・応用編) 30 固定資産Ⅰ⑨(中級・応用編) 31 固定資産Ⅰ⑩(中級・応用編) 32 固定資産Ⅰ⑪(中級・応用編) 33 固定資産Ⅰ⑫(中級・応用編) 34 ソフトウェアⅠ①(中級・応用編) 35 ソフトウェアⅠ②(中級・応用編) 36 ソフトウェアⅠ③(中級・応用編) 37 ソフトウェアⅠ④(中級・応用編) 38 債権債務Ⅰ①(中級・応用編) 39 債権債務Ⅰ②(中級・応用編) 40 債権債務Ⅰ③(中級・応用編)	41 債権債務Ⅰ④(中級・応用編) 42 貸倒れⅠ①(中級・応用編) 43 貸倒れⅠ②(中級・応用編) 44 貸倒れⅠ③(中級・応用編) 45 貸倒れⅠ④(中級・応用編) 46 貸倒れⅠ⑤(中級・応用編) 47 退職給付会計Ⅰ①(中級・応用編) 48 退職給付会計Ⅰ②(中級・応用編) 49 退職給付会計Ⅰ③(中級・応用編) 50 退職給付会計Ⅰ④(中級・応用編) 51 退職給付会計Ⅰ⑤(中級・応用編) 52 退職給付会計Ⅰ⑥(中級・応用編) 53 退職給付会計Ⅰ⑦(中級・応用編) 54 退職給付会計Ⅰ⑧(中級・応用編) 55 退職給付会計Ⅰ⑨(中級・応用編) 56 退職給付会計Ⅰ⑩(中級・応用編) 57 税金Ⅰ①(中級・応用編) 58 税金Ⅰ②(中級・応用編) 59 税金Ⅰ③(中級・応用編) 60 税金Ⅰ④(中級・応用編) 61 税金Ⅰ⑤(中級・応用編) 62 社債Ⅰ①(中級・応用編) 63 社債Ⅰ②(中級・応用編) 64 社債Ⅰ③(中級・応用編) 65 社債Ⅰ④(中級・応用編) 66 社債Ⅰ⑤(中級・応用編) 67 社債Ⅰ⑥(中級・応用編) 68 社債Ⅰ⑦(中級・応用編) 69 純資産会計Ⅰ①(中級・応用編) 70 純資産会計Ⅰ②(中級・応用編) 71 純資産会計Ⅰ③(中級・応用編) 72 純資産会計Ⅰ④(中級・応用編) 73 純資産会計Ⅰ⑤(中級・応用編) 74 純資産会計Ⅰ⑥(中級・応用編) 75 有価証券Ⅰ①(中級・応用編) 76 有価証券Ⅰ②(中級・応用編) 77 有価証券Ⅰ③(中級・応用編) 78 有価証券Ⅰ④(中級・応用編) 79 有価証券Ⅰ⑤(中級・応用編) 80 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	財務諸表論Ⅲ	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	160時間	
授業コマ数	80コマ	
授業概要	会計学の中級・応用を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	的確な解法で問題を解き、答えを導き出す	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 ガイダンス・財務諸表の基礎(中級・応用) 2 個別注記表(中級・応用) 3 現金及び預金(中級・応用) 4 債権債務(中級・応用) 5 関係会社概念(中級・応用) 6 売上原価の算定(中級・応用) 7 貸倒れ(中級・応用) 8 給料等(中級・応用) 9 その他の引当金(中級・応用) 10 退職給付会計(中級・応用) 11 有形固定資産(中級・応用) 12 無形固定資産(中級・応用) 13 株主資本(中級・応用) 14 財務諸表論の基礎概念(中級・応用) 15 売買目的有価証券(中級・応用) 16 満期保有目的の債券(中級・応用) 17 子会社株式・関連会社株式(中級・応用) 18 その他有価証券(中級・応用) 19 ソフトウェア(中級・応用) 20 法人税等・追徴還付(中級・応用) 21 現在価値計算(中級・応用) 22 社債(中級・応用) 23 利益剰余金(中級・応用) 24 自己株式(中級・応用) 25 配当(中級・応用) 26 外形基準、租税公課(中級・応用) 27 源泉所得税、社会保険料(中級・応用) 28 税効果会計(中級・応用) 29 税効果注記(中級・応用) 30 源泉所得税、社会保険料(中級・応用) 31 株主資本等変動計算書(中級・応用) 32 減損会計(中級・応用) 33 配当を受けた株主の処理(中級・応用) 34 圧縮記帳(中級・応用) 35 外貨建取引(中級・応用) 36 退職給付会計簡便法(中級・応用) 37 繰延資産(中級・応用) 38 為替予約(中級・応用) 39 為替予約(中級・応用)② 40 仕入・売上げの計上基準(中級・応用)	41 消費税等(中級・応用) 42 消費税等(中級・応用)② 43 他勘定振替(中級・応用) 44 外貨建有価証券(中級・応用) 45 外貨建有価証券(中級・応用)② 46 外貨建有価証券(中級・応用)③ 47 リース会計(中級・応用) 48 リース会計(中級・応用)② 49 リース会計(中級・応用)③ 50 証券投資信託(中級・応用) 51 ゴルフ会員権(中級・応用) 52 売価還元法(中級・応用) 53 売価還元法(中級・応用)② 54 製造業会計(中級・応用) 55 製造業会計(中級・応用)② 56 研究開発費(中級・応用) 57 研究開発費(中級・応用)② 58 新株予約権(中級・応用) 59 新株予約権(中級・応用)② 60 キャッシュ・フロー計算書(中級・応用) 61 キャッシュ・フロー計算書(中級・応用)② 62 損益計算書総論(中級・応用) 63 損益計算書総論(中級・応用)② 64 貸借対照表総論(中級・応用) 65 貸借対照表総論(中級・応用)② 66 資産総論(中級・応用) 67 資産総論(中級・応用)② 68 棚卸資産に関する会計基準(中級・応用) 69 棚卸資産に関する会計基準(中級・応用)② 70 連続意見書(中級・応用) 71 連続意見書(中級・応用)② 72 引当金(中級・応用) 73 引当金(中級・応用)② 74 会計観(中級・応用) 75 会計観(中級・応用)② 76 金融商品(中級・応用) 77 金融商品(中級・応用)② 78 収益性の低下(中級・応用) 79 収益性の低下(中級・応用)② 80 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	消費税法Ⅲ	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	160時間	
授業コマ数	80コマ	
授業概要	売上・仕入取引についての消費税の可否区分、納税義務の有無の判定や、仕入税額控除の特例の考え方を学習する	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	「消費税法」の法律等の知識習得を目的とする。	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 ガイダンス 2 課税の対象①(初級・中級編) 3 課税の対象②(初級・中級編) 4 課税の対象③(初級・中級編) 5 課税の対象④(初級・中級編) 6 非課税①(初級・中級編) 7 非課税②(初級・中級編) 8 非課税③(初級・中級編) 9 非課税④(初級・中級編) 10 輸出免税等①(初級・中級編) 11 輸出免税等②(初級・中級編) 12 輸出免税等③(初級・中級編) 13 輸出免税等④(初級・中級編) 14 輸出免税等⑤(初級・中級編) 15 資産の譲渡等の時期(初級・中級編) 16 控除対象仕入税額①(初級・中級編) 17 控除対象仕入税額②(初級・中級編) 18 控除対象仕入税額③(初級・中級編) 19 控除対象仕入税額④(初級・中級編) 20 売上げに係る対価の返還等(初級・中級編) 21 貸倒れが生じた場合(初級・中級編) 22 課税仕入れの範囲①(初級・中級編) 23 課税仕入れの範囲②(初級・中級編) 24 課税仕入れの範囲③(初級・中級編) 25 課税仕入れの範囲④(初級・中級編) 26 課税仕入れの範囲⑤(初級・中級編) 27 課税仕入れ等の時期①(初級・中級編) 28 課税仕入れ等の時期②(初級・中級編) 29 課税仕入れ等の時期③(初級・中級編) 30 課税仕入れ等の時期④(初級・中級編) 31 課税仕入れ等の時期⑤(初級・中級編) 32 課税売上割合①(初級・中級編) 33 課税売上割合②(初級・中級編) 34 課税売上割合③(初級・中級編) 35 課税売上割合④(初級・中級編) 36 課税売上割合⑤(初級・中級編) 37 課税期間における課税売上高①(初級・中級編) 38 課税期間における課税売上高②(初級・中級編) 39 課税期間における課税売上高③(初級・中級編) 40 課税期間における課税売上高④(初級・中級編)	41 課税売上割合に準ずる割合①(初級・中級編) 42 課税売上割合に準ずる割合②(初級・中級編) 43 課税売上割合に準ずる割合③(初級・中級編) 44 課税売上割合に準ずる割合④(初級・中級編) 45 仕入れに係る対価の返還等(初級・中級編) 46 納税義務の免除(初級・中級編) 47 国境を越えた役務の提供①(初級・中級編) 48 国境を越えた役務の提供②(初級・中級編) 49 国境を越えた役務の提供③(初級・中級編) 50 中間申告に係る納付税額の計算(初級・中級編) 51 課税仕入れ等の分類①(初級・中級編) 52 課税仕入れ等の分類②(初級・中級編) 53 課税仕入れ等の分類③(初級・中級編) 54 非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額控除の特例(初級・中級編) 55 調整対象固定資産に係る仕入税額控除の調整①(初級・中級編) 56 調整対象固定資産に係る仕入税額控除の調整②(初級・中級編) 57 納税義務の免除の特例①(初級・中級編) 58 納税義務の免除の特例②(初級・中級編) 59 納税義務の免除の特例③(初級・中級編) 60 納税義務の免除の特例④(初級・中級編) 61 納税義務の免除の特例⑤(初級・中級編) 62 合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算①(初級・中級編) 63 合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算②(初級・中級編) 64 棚卸資産に係る仕入税額控除の調整・特殊項目②(初級・中級編) 65 課税標準①(初級・中級編) 66 課税標準②(初級・中級編) 67 簡易課税制度①(初級・中級編) 68 簡易課税制度②(初級・中級編) 69 簡易課税制度③(初級・中級編) 70 簡易課税制度④(初級・中級編) 71 軽減税率①(初級・中級編) 72 軽減税率②(初級・中級編) 73 旧税率に関する経過措置①(初級・中級編) 74 旧税率に関する経過措置②(初級・中級編) 75 複数税率の場合の計算①(初級・中級編) 76 複数税率の場合の計算②(初級・中級編) 77 国等に対する特例①(初級・中級編) 78 国等に対する特例②(初級・中級編) 79 特殊項目③(税抜経理方式)(初級・中級編) 80 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	相続税法Ⅲ	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	160時間	
授業コマ数	80コマ	
授業概要	相続税および贈与税を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	相続税および贈与税を理解する	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 相続税法の概要(初級・中級) 3 相続税法と民法(初級・中級) 4 相続人、代襲相続(初級・中級) 5 養子の子の取扱い(初級・中級) 6 相続の承認と放棄(初級・中級) 7 相続分(法定相続分、代襲相続分)(初級・中級) 8 遺言による財産の取得(初級・中級) 9 贈与税の概要(初級・中級)、贈与税の納税義務者(初級・中級) 10 弔慰金等(初級・中級)、債務控除(初級・中級) 11 相続時精算課税制度の概要及び贈与税額の計算(初級・中級) 12 相続時精算課税適用財産(初級・中級)、生前贈与加算相続税の税額(初級・中級) 13 算出相続税額の計算(初級・中級)、相続税額の加算(初級・中級) 14 贈与税額控除(暦年)(初級・中級)、配偶者の税額軽減(初級・中級) 15 未成年者控除(初級・中級)、障害者控除(初級・中級) 16 確認テスト①(理論) 17 特定納税義務者(初級・中級) 18 特定納税義務者の債務控除(初級・中級)、特定納税義務者の障害者控除(初級・中級) 19 贈与税額控除(精算)(初級・中級) 20 自用地(評価方式・路線価方式・倍率方式)(初級・中級) 21 自家用屋(初級・中級)、家屋と構造上一体となっている設備(初級・中級) 22 特別養子制度(初級・中級)、生命保険契約に関する権利(初級・中級) 23 被保険者でない保険契約者が死亡した場合(初級・中級) 24 法定相続人の数(初級・中級)、本来の財産(初級・中級) 25 自用地(路線に以上上の路線価が付されている宅地)(初級・中級) 26 地区区分の異なる宅地(初級・中級) 27 側方路線等に宅地の一部が接している場合(初級・中級) 28 普通借地権(自用借地権)(初級・中級)、貸宅地(初級・中級)、貸家建付地(初級・中級) 29 貸家建付借地権(初級・中級)、貸家(初級・中級) 30 一般動産(初級・中級)、たな卸商品等(初級・中級) 31 書画骨とう品(初級・中級)、預貯金(初級・中級) 32 上場株式(初級・中級)、構築物(初級・中級) 33 貸付金債権等(初級・中級)、受取手形等(初級・中級) 34 間口が狭小な宅地等(初級・中級)、角切り宅地の間口距離(初級・中級) 35 確認テスト②(理論) 36 使用貸借により借り受けた宅地等(初級・中級) 37 使用貸借により貸し付けられた宅地等(初級・中級) 38 使用貸借により貸し付けられた家屋(初級・中級) 39 小規模宅地等の減額①(初級・中級) 40 小規模宅地等の減額②(初級・中級) 	<ol style="list-style-type: none"> 41 小規模宅地等の減額③(初級・中級) 42 小規模宅地等の減額④(初級・中級) 43 小規模宅地等の減額⑤(初級・中級) 44 小規模宅地等の減額⑥(初級・中級) 45 確認テスト③(理論) 46 取引相場のない株式①(初級・中級) 47 取引相場のない株式②(初級・中級) 48 取引相場のない株式③(初級・中級) 49 取引相場のない株式④(初級・中級) 50 取引相場のない株式⑤(初級・中級) 51 取引相場のない株式⑥(初級・中級) 52 取引相場のない株式⑦(初級・中級) 53 取引相場のない株式⑧(初級・中級) 54 取引相場のない株式⑨(初級・中級) 55 取引相場のない株式⑩(初級・中級) 56 取引相場のない株式⑪(初級・中級) 57 取引相場のない株式⑫(初級・中級) 58 取引相場のない株式⑬(初級・中級) 59 利用区分が異なる建物の敷地のように供されている宅地等(初級・中級) 60 相当の地代を受け取っている場合の貸宅地①(初級・中級) 61 相当の地代を受け取っている場合の貸宅地②(初級・中級) 62 相当の地代を受け取っている場合の貸宅地③(初級・中級) 63 相当の地代を支払っている場合の借地権①(初級・中級) 64 相当の地代を支払っている場合の借地権②(初級・中級) 65 土地の無償返還に関する届出書が提出されている場合の宅地①(初級・中級) 66 土地の無償返還に関する届出書が提出されている場合の宅地②(初級・中級) 67 利用区分が異なる建物(初級・中級)、建築中の家屋①(初級・中級) 68 利用区分が異なる建物(初級・中級)、建築中の家屋②(初級・中級) 69 不整形地(初級・中級)、地積規模の大きな宅地①(初級・中級) 70 不整形地(初級・中級)、地積規模の大きな宅地②(初級・中級) 71 がけ地等を有する宅地(初級・中級)、旗竿状の宅地等①(初級・中級) 72 がけ地等を有する宅地(初級・中級)、旗竿状の宅地等②(初級・中級) 73 がけ地等を有する宅地(初級・中級)、旗竿状の宅地等③(初級・中級) 74 容積率の異なる宅地①(初級・中級) 75 容積率の異なる宅地②(初級・中級) 76 容積率の異なる宅地③(初級・中級) 77 都市計画道路予定地の区域内にある宅地①(初級・中級) 78 都市計画道路予定地の区域内にある宅地②(初級・中級) 79 都市計画道路予定地の区域内にある宅地③(初級・中級) 80 確認テスト④(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	法人税法Ⅲ	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	160時間	
授業コマ数	80コマ	
授業概要	法人税法の計算体系、仕組みの理解を目的とする。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	基本的な部分の学習を行い、解法を習得する。	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1 ガイダンス(初級・中級) 2 納税義務者(初級・中級) 3 課税所得の範囲(初級・中級) 4 交際費等の損金不算入Ⅰ(初級・中級) 5 減価償却Ⅰ(初級・中級) 6 減価償却Ⅱ(初級・中級) 7 減価償却Ⅲ(初級・中級) 8 受取配当等の益金不算入Ⅰ(初級・中級) 9 寄附金の損金不算入Ⅰ(初級・中級) 10 貸倒損失Ⅰ(初級・中級) 11 貸倒損失Ⅱ(初級・中級) 12 貸倒引当金Ⅰ(初級・中級) 13 貸倒引当金Ⅱ(初級・中級) 14 欠損金Ⅰ(初級・中級) 15 欠損金Ⅱ(初級・中級) 16 外貨建取引Ⅰ(初級・中級) 17 外貨建取引Ⅱ(初級・中級) 18 有価証券Ⅰ(初級・中級) 19 有価証券Ⅱ(初級・中級) 20 収用等Ⅰ(初級・中級) 21 収用等Ⅱ(初級・中級) 22 所得税額控除Ⅰ(初級・中級) 23 所得税額控除Ⅱ(初級・中級) 24 国庫補助金等Ⅰ(初級・中級) 25 国庫補助金等Ⅱ(初級・中級) 26 別表五(-)の作成Ⅰ(初級・中級) 27 別表五(-)の作成Ⅱ(初級・中級) 28 圧縮記帳Ⅰ(初級・中級) 29 圧縮記帳Ⅱ(初級・中級) 30 役員判定Ⅰ(初級・中級) 31 役員判定Ⅱ(初級・中級) 32 役員給与Ⅰ(初級・中級) 33 役員給与Ⅱ(初級・中級) 34 使用人給与Ⅰ(初級・中級) 35 使用人給与Ⅱ(初級・中級) 36 特定資産の買換えⅠ(初級・中級) 37 特定資産の買換えⅡ(初級・中級) 38 外国税額控除Ⅰ(初級・中級) 39 外国税額控除Ⅱ(初級・中級) 40 外国子会社から受ける配当等の益金不算入Ⅰ(初級・中級)	41 外国子会社から受ける配当等の益金不算入Ⅱ(初級・中級) 42 みなし配当金Ⅰ(初級・中級) 43 みなし配当金Ⅱ(初級・中級) 44 資本等取引Ⅰ(初級・中級) 45 資本等取引Ⅱ(初級・中級) 46 交換差益Ⅰ(初級・中級) 47 交換差益Ⅱ(初級・中級) 48 交換差益Ⅲ(初級・中級) 49 交換差益Ⅳ(初級・中級) 50 交換差益Ⅴ(初級・中級) 51 別表五(二)Ⅰ(初級・中級) 52 別表五(二)Ⅱ(初級・中級) 53 別表五(二)Ⅲ(初級・中級) 54 別表五(二)Ⅳ(初級・中級) 55 別表五(二)Ⅴ(初級・中級) 56 リース取引Ⅰ(初級・中級) 57 リース取引Ⅱ(初級・中級) 58 リース取引Ⅲ(初級・中級) 59 リース取引Ⅳ(初級・中級) 60 リース取引Ⅴ(初級・中級) 61 繰延資産Ⅰ(初級・中級) 62 繰延資産Ⅱ(初級・中級) 63 繰延資産Ⅲ(初級・中級) 64 繰延資産Ⅳ(初級・中級) 65 繰延資産Ⅴ(初級・中級) 66 確定決算型Ⅰ(初級・中級) 67 確定決算型Ⅱ(初級・中級) 68 確定決算型Ⅲ(初級・中級) 69 確定決算型Ⅳ(初級・中級) 70 確定決算型Ⅴ(初級・中級) 71 グループ法人税制Ⅰ(初級・中級) 72 グループ法人税制Ⅱ(初級・中級) 73 グループ法人税制Ⅲ(初級・中級) 74 グループ法人税制Ⅳ(初級・中級) 75 資産の評価損益Ⅰ(初級・中級) 76 資産の評価損益Ⅱ(初級・中級) 77 資産の評価損益Ⅲ(初級・中級) 78 保険料Ⅰ(初級・中級) 79 保険料Ⅱ(初級・中級) 80 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	簿記論IV
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	特殊商品売買・金融商品等の一連の応用知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	的確な解法で問題を解き、答えを導き出す。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 税効果会計 I ①(応用編) 2 税効果会計 I ②(応用編) 3 現在価値計算 I ①(応用編) 4 現在価値計算 I ②(応用編) 5 保険金 I ①(応用編) 6 保険金 I ②(応用編) 7 新株予約権付社債 I ①(応用編) 8 新株予約権付社債 I ②(応用編) 9 減損会計 I ①(応用編) 10 減損会計 I ②(応用編) 11 資産除去債務 I ①(応用編) 12 資産除去債務 I ②(応用編) 13 外貨建会計 I ①(応用編) 14 外貨建会計 I ②(応用編) 15 リース会計 I ①(応用編) 16 試用販売 I ①(応用編) 17 割賦販売 I ①(応用編) 18 未着品販売 I (応用編) 19 委託販売・受託販売 I (応用編) 20 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト第1問の得点100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	財務諸表論Ⅳ
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	会社法の応用を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	的確な解法で問題を解き、答えを導き出す。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 会計上の変更及び誤謬の訂正①(応用) 2 会計上の変更及び誤謬の訂正②(応用) 3 分配可能額①(応用) 4 スtock・オプション①(応用) 5 セール&リースバック①(応用) 6 財務諸表等規則①(応用) 7 財務諸表等規則②(応用) 8 負債①(応用) 9 純資産会計①(応用) 10 純資産会計②(応用) 11 企業結合会計①(応用) 12 企業結合会計②(応用) 13 事業分離会計①(応用) 14 事業分離会計②(応用) 15 四半期財務諸表①(応用) 16 ヘッジ会計①(応用) 17 ヘッジ会計②(応用) 18 包括利益①(応用) 19 包括利益②(応用) 20 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト(理論)100%
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	消費税法IV
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	売上取引を中心とした消費税の可否区分の処理方法を学習する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	「消費税法」「租税特別措置法」の法律等の知識習得を目的とする。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 課税の対象(概要編) 2 課税の対象①(中級・応用編) 3 課税の対象②(中級・応用編) 4 課税の対象③(中級・応用編) 5 課税の対象④(中級・応用編) 6 課税の対象⑤(中級・応用編) 7 非課税①(中級・応用編) 8 非課税②(中級・応用編) 9 非課税③(中級・応用編) 10 非課税④(中級・応用編) 11 非課税⑤(中級・応用編) 12 輸出免税等①(中級・応用編) 13 輸出免税等②(中級・応用編) 14 輸出免税等③(中級・応用編) 15 輸出免税等④(中級・応用編) 16 輸出免税等⑤(中級・応用編) 17 資産の譲渡等の時期①(中級・応用編) 18 資産の譲渡等の時期②(中級・応用編) 19 資産の譲渡等の時期③(中級・応用編) 20 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト(理論)100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	相続税法IV
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	相続税、贈与税の応用的な知識を網羅し文章問題を解答する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	相続税法に基づいた基礎的な問題を解き、答えを導き出す
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 私道の用に供されている宅地(応用)、セットバックを必要とする宅地(応用) 2 上場株式(権利落)(応用)、株式の割り当てを受ける権利(応用) 3 宅地等の評価単位(応用)、契約者貸付金等がある場合の保険金(応用) 4 純農地、中間農地、純山林、中間山林(応用) 5 市街地周辺農地、市街地農地、市街地山林(応用) 6 立木、立木の評価減(応用)、配当期待権(応用) 7 贈与税が課税される場合(応用)、相続税が課税される場合(応用) 8 負担付遺贈・贈与(応用)、贈与税の非課税財産(応用) 9 直系尊属から教育資金の一括贈与を受けた場合の贈与税の非課税(応用) 10 住宅取得等資金の贈与を受けた場合の相続時精算課税の特例(応用)① 11 住宅取得等資金の贈与を受けた場合の相続時精算課税の特例(応用)② 12 直系尊属から住宅取得等資金の贈与を受けた場合の贈与税の非課税(応用)① 13 直系尊属から住宅取得等資金の贈与を受けた場合の贈与税の非課税(応用)② 14 証券投資信託受益証券(応用)、ゴルフ会員権(応用)① 15 証券投資信託受益証券(応用)、ゴルフ会員権(応用)② 16 不動産投資信託証券(応用)、措法70の非課税(応用)① 17 不動産投資信託証券(応用)、措法71の非課税(応用)② 18 権利義務の承継(応用)、贈与税の配偶者控除(応用)① 19 権利義務の承継(応用)、贈与税の配偶者控除(応用)② 20 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト(理論)100%
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	法人税法IV
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	組織再編税制を中心とした法人税法の体系を学ぶ。
授業の進め方	テキストを中心とした講義により概要を知る
達成目標	各項目の応用的な部分を学び、各体系の解法を習得する。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 設立事業年度(応用) 2 組織再編税制(応用) 3 工事の請負(応用) 4 修正申告(応用) 5 税効果会計(応用) 6 賃上げ・投資促進税制(応用) 7 スピンオフ税制(応用) 8 特定同族会社の特別税率(応用) 9 適用除外事業者(応用) 10 地方法人税①(応用) 11 地方法人税②(応用) 12 外国子会社配当①(応用) 13 外国子会社配当②(応用) 14 借地権等①(応用) 15 借地権等②(応用) 16 償還差損益①(応用) 17 償還差損益②(応用) 18 未収還付税金①(応用) 19 未収還付税金②(応用) 20 確認テスト(理論)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト(理論) 100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	プログラム言語実習 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	実習
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	HTML/CSS
授業の進め方	テキストによる講義と基礎的な実習
達成目標	HTML/CSSを使用してWebページの作成ができる
教科書	いちばんやさしいHTML5&CSS3の教本 (インプレス)
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Webサイト作成準備 2 HTMLの基本 3 HTML文書の設計 4 共通ページから個別ページの作成(1) 5 共通ページから個別ページの作成(2) 6 共通ページから個別ページの作成(3) 7 CSSの基本(1) 8 CSSの基本(2) 9 CSSの基本(3) 10 CSSで共通部分をデザインする(1) 11 CSSで共通部分をデザインする(2) 12 CSSで共通部分をデザインする(3) 13 コンテンツのデザインを整える(1) 14 コンテンツのデザインを整える(2) 15 コンテンツのデザインを整える(3) 16 スマートフォンに対応させる(1) 17 スマートフォンに対応させる(2) 18 スマートフォンに対応させる(3) 19 Webサイトを公開する・機能追加 20 効果測定 HTML/CSS
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	プログラム言語実習Ⅱ
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	実習
授業時間	40時間時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	JavaScript
授業の進め方	テキストによる講義と基礎的な実習
達成目標	JavaScriptを使用した動的なWebページの作成ができる
教科書	3ステップでしっかり学ぶJavaScript入門[改訂2版] (技術評論社)
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 JavaScriptの基礎知識 2 はじめてのプログラム(1) 3 はじめてのプログラム(2) 4 変数と演算について(1) 5 変数と演算について(2) 6 条件分岐(1) 7 条件分岐(2) 8 繰り返し(1) 9 繰り返し(2) 10 ユーザ定義関数の作成(1) 11 ユーザ定義関数の作成(2) 12 オブジェクトの操作(1) 13 オブジェクトの操作(2) 14 オブジェクトの操作(3) 15 オブジェクトの操作(4) 16 配列の基礎(1) 17 配列の基礎(2) 18 配列の操作(1) 19 配列の操作(2) 20 効果測定 JavaScript(1)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	システム開発 I
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	実習
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	ユースケース駆動設計によるオブジェクト指向分析・設計の実習
授業の進め方	テキストによる講義と基礎から応用までの実習
達成目標	分析から設計・実装までのソフトウェアライフサイクルに対応できる
教科書	システムの分析と設計 図解とUMLによるアプローチ (大学教育出版)
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種ツールの準備と・実習 2 システム分析の本質 3 図解技法の応用(例題と演習) 4 演習(1) 5 演習(2) 6 システム分析・設計の手順 7 UMLの基本(1) 8 UMLの基本(2) 9 システム分析の事例演習1-1 10 システム分析の事例演習1-2 11 システム分析の事例演習1-3 12 システム分析の事例演習2-1 13 システム分析の事例演習2-2 14 システム分析の事例演習2-3 15 システム分析の事例演習2-4 16 システム分析の事例演習3-1 17 システム分析の事例演習3-2 18 システム分析の事例演習3-3 19 UMLを用いたシステムの設計の基礎 20 効果測定 オブジェクト指向分析設計(1)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	プレゼンテーション概論
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	実習
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	企画から発表までの一連の流れ
授業の進め方	各種資料による講義とディスカッションを通じ、専門的な知識と思考の定着を図る
達成目標	プレゼンテーションに必要な要素の理解、演習
教科書	テキスト及び参考書
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 プレゼンテーションとは何か 2 プレゼンテーションの種類 3 企画① 4 企画② 5 企画③ 6 情報収集① 7 情報収集② 8 情報収集③ 9 シナリオ作成① 10 シナリオ作成② 11 シナリオ作成③ 12 コンテンツ作成① 13 コンテンツ作成② 14 話し方 15 発表練習① 16 発表練習② 17 発表練習③ 18 発表練習④ 19 発表練習⑤ 20 発表
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、実践スキルの習熟状況
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	基本情報総合
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	80時間
授業コマ数	40コマ
授業概要	IT基礎知識の学習：テクノロジー系、マネジメント系、ストラテジ系
授業の進め方	テキストによる講義と一部基礎的な問題演習
達成目標	IT基礎全般において、基本的な理解を深める
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 第1章ハードウェア I 2 第2章基礎理論 3 問題演習 4 第2章基礎理論 5 第2章基礎理論 6 問題演習 7 第3章ハードウェア II 8 第3章ハードウェア II 9 問題演習 10 第3章ハードウェア II 11 第4章ソフトウェア 12 問題演習 13 第4章ソフトウェア 14 第4章ソフトウェア 15 問題演習 16 第4章ソフトウェア、第5章アルゴリズム 17 第5章アルゴリズム 18 問題演習 19 第5章アルゴリズム 20 第6章データベース 21 問題演習 22 第6章データベース 23 第6章データベース 24 問題演習 25 第7章ネットワーク 26 第7章ネットワーク 27 問題演習 28 第7章ネットワーク、第8章セキュリティ 29 第8章セキュリティ 30 問題演習 31 第8章セキュリティ、第9章システム構成要素 32 第9章システム構成要素 33 問題演習 34 第9章システム構成要素 35 第10章マルチメディア 36 問題演習 37 第11章システム開発 38 第11章システム開発 39 第12章システム開発 40 問題演習
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	オフィス基礎
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用法を習得する
授業の進め方	反復練習と効果測定により、確実な知識とスキルの定着を図る
達成目標	MOS Excelレベルの操作を習得する
教科書	テキスト及び参考書
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ワークシートやブックの作成と管理① 2 ワークシートやブックの作成と管理② 3 セルやセル範囲のデータの管理① 4 セルやセル範囲のデータの管理② 5 テーブルの作成① 6 テーブルの作成② 7 テーブルの作成③ 8 関数を使用してのデータ集計① 9 関数を使用してのデータ集計② 10 関数を使用してのデータ集計③ 11 関数を使用しての条件付き計算④ 12 関数を使用しての条件付き計算⑤ 13 関数を使用しての条件付き計算⑥ 14 関数を使用した文字列の整形や変更① 15 関数を使用した文字列の整形や変更② 16 関数を使用した文字列の整形や変更③ 17 グラフの作成① 18 グラフの作成② 19 グラフの作成③ 20 グラフの作成④
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	パソコン実習	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	80時間	
授業コマ数	40コマ	
授業概要	MOS Excel試験に合格するために必要な操作に関する総合的な知識を身につけるためのトレーニング	
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る	
達成目標	Excelの主な機能を利用して、複数のシートを含むブックの作成・編集、データの抽出や並べ替え、数式の作成、関数の使用、グラフを利用したデータの視覚的表現、印刷設定など、さまざまな目的や状況に応じて数値データを扱うことができる	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	グラフの書式設定①
	2	グラフの書式設定②
	3	グラフの書式設定③
	4	グラフの書式設定④
	5	グラフの書式設定⑤
	6	オブジェクトの挿入や書式設定①
	7	オブジェクトの挿入や書式設定②
	8	オブジェクトの挿入や書式設定③
	9	オブジェクトの挿入や書式設定④
	10	オブジェクトの挿入や書式設定⑤
	11	オブジェクトの挿入や書式設定⑥
	12	ワークシートやブックの作成と管理
	13	セルやセル範囲のデータの管理
	14	テーブルの作成
	15	テーブルの作成
	16	関数を使用時のデータ集計①
	17	関数を使用時のデータ集計②
	18	関数を使用時の条件付き計算①
	19	関数を使用時の条件付き計算②
	20	関数を使用時の条件付き計算③
	21	関数を使用した文字列の整形や変更①
	22	関数を使用した文字列の整形や変更②
	23	グラフの作成①
	24	グラフの作成②
	25	グラフの作成③
	26	グラフの作成④
	27	グラフの作成⑤
	28	グラフの作成⑥
	29	グラフの書式設定①
	30	グラフの書式設定②
	31	グラフの書式設定③
	32	グラフの書式設定④
	33	グラフの書式設定⑤
	34	オブジェクトの挿入や書式設定①
	35	オブジェクトの挿入や書式設定②
	36	オブジェクトの挿入や書式設定③
	37	オブジェクトの挿入や書式設定④
	38	オブジェクトの挿入や書式設定⑤
	39	オブジェクトの挿入や書式設定⑥
	40	オブジェクトの挿入や書式設定⑦
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	時事対策
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	現代社会における主要な時事の基本用語を理解し、自分の考えや意見を持つための学習
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	主要な時事の基本用語が理解できている 自ら時事に関する情報収集を行い、自分の考えや意見を伝えることができる
教科書	テキスト及び参考書
特記	
授業計画	1 用語知識① 2 用語知識② 3 用語知識③ 4 用語知識④ 5 用語知識⑤ 6 用語知識⑥ 7 用語知識⑦ 8 考え方① 9 考え方② 10 考え方③ 11 考え方④ 12 考え方⑤ 13 発表① 14 発表② 15 発表③ 16 発表④ 17 個人研究① 18 個人研究② 19 個人研究③ 20 個人研究④
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	オフィス活用
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	実習
授業時間	80時間
授業コマ数	40コマ
授業概要	ビジネスで活用できる操作能力を身に付けることを目的とする。会計データ作成などより実務に役立つ能力を身に付ける
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習操作を行い、より高度な操作定着を図る
達成目標	学習したパソコンスキルを活かし、テーマに合わせた資料作成・企画案作成・プレゼンテーションの実施
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 新規プレゼンテーションの作成と編集① 2 新規プレゼンテーションの作成と編集② 3 新規プレゼンテーションの作成と編集③ 4 新規プレゼンテーションの作成と編集④ 5 新規プレゼンテーションの作成と編集⑤ 6 新規プレゼンテーションの作成と編集⑥ 7 新規プレゼンテーションの作成と編集⑦ 8 新規プレゼンテーションの作成と編集⑧ 9 新規プレゼンテーションの作成と編集⑨ 10 新規プレゼンテーションの作成と編集⑩ 11 テキスト・図形・画像の挿入と編集① 12 テキスト・図形・画像の挿入と編集② 13 テキスト・図形・画像の挿入と編集③ 14 テキスト・図形・画像の挿入と編集④ 15 テキスト・図形・画像の挿入と編集⑤ 16 テキスト・図形・画像の挿入と編集⑥ 17 テキスト・図形・画像の挿入と編集⑦ 18 テキスト・図形・画像の挿入と編集⑧ 19 テキスト・図形・画像の挿入と編集⑨ 20 テキスト・図形・画像の挿入と編集⑩ 21 表・グラフ・SmartArt、メディアの挿入と設定① 22 表・グラフ・SmartArt、メディアの挿入と設定② 23 表・グラフ・SmartArt、メディアの挿入と設定③ 24 表・グラフ・SmartArt、メディアの挿入と設定④ 25 表・グラフ・SmartArt、メディアの挿入と設定⑤ 26 特殊効果の設定とスライドショー① 27 特殊効果の設定とスライドショー② 28 特殊効果の設定とスライドショー③ 29 特殊効果の設定とスライドショー④ 30 特殊効果の設定とスライドショー⑤ 31 企画立案① 32 企画立案② 33 企画立案③ 34 企画立案④ 35 企画立案⑤ 36 企画書の作成① 37 企画書の作成② 38 企画書の作成③ 39 企画書の作成④ 40 企画発表(効果測定)
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容																																								
授業科目	アプリケーションソフト実習																																								
実務家教員																																									
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース																																								
履修年次	2年次																																								
開講学期	1学期																																								
科目区分	選択																																								
授業方法	実習																																								
授業時間	40時間																																								
授業コマ数	20コマ																																								
授業概要	Officeソフトの基本を身に付けることを目的とし就職活動で必要とされる資料作成を通じて実践的なトレーニングを行う																																								
授業の進め方	反復練習と効果測定により効果的な使用方法を習得する																																								
達成目標	MOS Word Excelレベルの操作を習得する																																								
教科書	オリジナルテキスト																																								
特記																																									
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>Wordの構成要素</td></tr> <tr><td>2</td><td>文書の作成と管理</td></tr> <tr><td>3</td><td>練習問題演習</td></tr> <tr><td>4</td><td>一般的にビジネス文書の作成</td></tr> <tr><td>5</td><td>練習問題演習</td></tr> <tr><td>6</td><td>レポートや報告書の作成</td></tr> <tr><td>7</td><td>練習問題演習</td></tr> <tr><td>8</td><td>表、画像、図形を使った文書作成</td></tr> <tr><td>9</td><td>練習問題演習</td></tr> <tr><td>10</td><td>効果測定</td></tr> <tr><td>11</td><td>Excelの構成要素</td></tr> <tr><td>12</td><td>表作成の基本操作</td></tr> <tr><td>13</td><td>練習問題演習</td></tr> <tr><td>14</td><td>数式・関数を活用した集計表の作成</td></tr> <tr><td>15</td><td>練習問題演習</td></tr> <tr><td>16</td><td>見やすく使いやすい表にする編集操作</td></tr> <tr><td>17</td><td>練習問題演習①</td></tr> <tr><td>18</td><td>練習問題演習②</td></tr> <tr><td>19</td><td>練習問題演習③</td></tr> <tr><td>20</td><td>効果測定</td></tr> </table>	1	Wordの構成要素	2	文書の作成と管理	3	練習問題演習	4	一般的にビジネス文書の作成	5	練習問題演習	6	レポートや報告書の作成	7	練習問題演習	8	表、画像、図形を使った文書作成	9	練習問題演習	10	効果測定	11	Excelの構成要素	12	表作成の基本操作	13	練習問題演習	14	数式・関数を活用した集計表の作成	15	練習問題演習	16	見やすく使いやすい表にする編集操作	17	練習問題演習①	18	練習問題演習②	19	練習問題演習③	20	効果測定
1	Wordの構成要素																																								
2	文書の作成と管理																																								
3	練習問題演習																																								
4	一般的にビジネス文書の作成																																								
5	練習問題演習																																								
6	レポートや報告書の作成																																								
7	練習問題演習																																								
8	表、画像、図形を使った文書作成																																								
9	練習問題演習																																								
10	効果測定																																								
11	Excelの構成要素																																								
12	表作成の基本操作																																								
13	練習問題演習																																								
14	数式・関数を活用した集計表の作成																																								
15	練習問題演習																																								
16	見やすく使いやすい表にする編集操作																																								
17	練習問題演習①																																								
18	練習問題演習②																																								
19	練習問題演習③																																								
20	効果測定																																								
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定																																								
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。																																								

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	ビジネスマナー	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	1学期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	80時間	
授業コマ数	40コマ	
授業概要	働くうえで備えておくべき基本的な心構えや一般知識を理解する	
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る	
達成目標	基本的な職場常識・職務の知識を身に付ける	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 職場での心構え① 2 職場での心構え② 3 職場での心構え③ 4 職場での心構え④ 5 職場での心構え⑤ 6 職場に必要な能力① 7 職場に必要な能力② 8 職場に必要な能力③ 9 職場に必要な能力④ 10 職場に必要な能力⑤ 11 職場に必要な能力⑥ 12 職場に必要な能力⑦ 13 職場に必要な能力⑧ 14 職場に必要な能力⑨ 15 職場に必要な能力⑩ 16 職場の役割と機能① 17 職場の役割と機能② 18 職場の役割と機能③ 19 職場の役割と機能④ 20 職場の役割と機能⑤ 21 秘書の職務① 22 秘書の職務② 23 秘書の職務③ 24 秘書の職務④ 25 秘書の職務⑤ 26 企業の基礎知識① 27 企業の基礎知識② 28 企業の基礎知識③ 29 企業の基礎知識④ 30 企業の基礎知識⑤ 31 企業の基礎知識⑥ 32 企業の基礎知識⑦ 33 企業の基礎知識⑧ 34 企業の基礎知識⑨ 35 企業の基礎知識⑩ 36 企業組織の活動① 37 企業組織の活動② 38 社会常識① 39 社会常識② 40 社会常識③ 	
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	マナー接遇応用
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	実習
授業時間	80時間
授業コマ数	40コマ
授業概要	職場でのマナー・技能を理解する
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	職場での電話応対・来客対応、ビジネス文書作成の知識を身に付ける
教科書	テキスト及び参考書
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人間関係と話し方・聞き方① 2 人間関係と話し方・聞き方② 3 人間関係と話し方・聞き方③ 4 人間関係と話し方・聞き方④ 5 人間関係と話し方・聞き方⑤ 6 敬語と接遇用語① 7 敬語と接遇用語② 8 敬語と接遇用語③ 9 敬語と接遇用語④ 10 敬語と接遇用語⑤ 11 電話応対① 12 電話応対② 13 電話応対③ 14 電話応対④ 15 電話応対⑤ 16 来客対応① 17 来客対応② 18 来客対応③ 19 来客対応④ 20 来客対応⑤ 21 交際業務① 22 交際業務② 23 交際業務③ 24 交際業務④ 25 交際業務⑤ 26 ビジネス文書の作成① 27 ビジネス文書の作成② 28 ビジネス文書の作成③ 29 ビジネス文書の作成④ 30 ビジネス文書の作成⑤ 31 文書・資料管理① 32 文書・資料管理② 33 文書・資料管理③ 34 文書・資料管理④ 35 日程管理① 36 日程管理② 37 日程管理③ 38 日程管理④ 39 環境整備① 40 環境整備②
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	プログラム言語論	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	2学期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	200時間	
授業コマ数	100コマ	
授業概要	システム開発における企画立案、ユースケース図の作成 システム開発におけるロバストネス図の作成、シーケンス図の作成 システム開発におけるシーケンス図の作成、ソースコードの作成	
授業の進め方	グループワークなどを通じ、実践的知識の習得	
達成目標	企画立案をおこない、ユースケース図を完成させる ロバストネス図の完成 シーケンス図の作成	
教科書	履修済科目で使用した教科書複数	
特記		
授業計画	1 業界研究1 2 業界研究2 3 業界研究3 4 企画立案1 5 企画立案2 6 企画立案3 7 企画立案4 8 企画立案5 9 企画立案6 10 企画書の作成1 11 企画書の作成2 12 企画書の作成3 13 企画書の作成4 14 中間発表準備1 15 中間発表準備2 16 中間発表準備3 17 中間発表1 18 ドメインモデリングの理論 19 ドメインモデリングの実践 20 ドメインモデリング分析1 21 ドメインモデリング分析2 22 ユースケースモデリングの理論 23 ユースケースモデリングの実践 24 ユースケースモデリング分析1 25 ユースケースモデリング分析2 26 ユースケースモデリング分析3 27 ユースケースモデリング分析4 28 ユースケースモデリング分析5 29 ユースケースモデリング分析6 30 ユースケースモデリング分析7 31 ユースケースモデリング分析8 32 ユースケースモデリング分析9 33 ユースケースモデリング分析10 34 ユースケースモデリング分析11 35 ユースケースモデリング分析12 36 ユースケースモデリング分析13 37 ユースケースモデリング分析14 38 要求レビューの理論 39 要求レビューの実践 40 要求レビュー1 41 要求レビュー2 42 要求レビュー3 43 要求レビュー4 44 要求レビュー5 45 中間発表準備1 46 中間発表準備2 47 中間発表準備3 48 中間発表準備4 49 中間発表2 50 シーケンス図作成1	51 シーケンス図作成2 52 シーケンス図作成3 53 シーケンス図作成4 54 シーケンス図作成5 55 シーケンス図作成6 56 シーケンス図作成7 57 シーケンス図作成8 58 シーケンス図作成9 59 シーケンス図作成10 60 シーケンス図作成11 61 シーケンス図作成12 62 シーケンス図作成13 63 シーケンス図作成14 64 シーケンス図作成15 65 シーケンス図作成16 66 ロバストネス図作成1 67 ロバストネス図作成2 68 ロバストネス図作成3 69 ロバストネス図作成4 70 ロバストネス図作成5 71 ロバストネス図作成6 72 ロバストネス図作成7 73 ロバストネス図作成8 74 ロバストネス図作成9 75 ロバストネス図作成10 76 ロバストネス図作成11 77 ロバストネス図作成12 78 ロバストネス図作成13 79 ロバストネス図作成14 80 ロバストネス図作成15 81 ロバストネス図作成16 82 詳細設計レビューの理論 83 詳細設計レビューの実践 84 詳細設計レビュー1 85 詳細設計レビュー2 86 詳細設計レビュー3 87 詳細設計レビュー4 88 詳細設計レビュー5 89 詳細設計レビュー6 90 詳細設計レビュー7 91 詳細設計レビュー8 92 詳細設計レビュー9 93 詳細設計レビュー10 94 詳細設計からコードへ 95 実装の実践 96 プログラミング(開発)1 97 プログラミング(開発)2 98 プログラミング(開発)3 99 プログラミング(開発)4 100 プログラミング(開発)5
成績評価方法 (試験実施方法)	研究発表100% 研究成果のプレゼンテーションに対する講評	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容			
授業科目	システム設計開発論			
実務家教員				
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース			
履修年次	2年次			
開講学期	2学期			
科目区分	選択			
授業方法	実習			
授業時間	240時間			
授業コマ数	120コマ			
授業概要	システム開発におけるソースコードの作成、テストの実践			
授業の進め方	グループワークなどを通じ、実践的知識の習得			
達成目標	ソースコードの作成、テストの実践			
教科書	履修済科目で使用した教科書複数			
特記				
授業計画	1	プログラミング(開発)1	61	卒業研究発表会準備1
	2	プログラミング(開発)2	62	卒業研究発表会準備2
	3	プログラミング(開発)3	63	卒業研究発表会準備3
	4	プログラミング(開発)4	64	卒業研究発表会準備4
	5	プログラミング(開発)5	65	卒業研究発表会
	6	プログラミング(開発)6	66	プログラミング(開発)1
	7	プログラミング(開発)7	67	プログラミング(開発)2
	8	プログラミング(開発)8	68	プログラミング(開発)3
	9	プログラミング(開発)9	69	プログラミング(開発)4
	10	プログラミング(開発)10	70	プログラミング(開発)5
	11	プログラミング(開発)11	71	プログラミング(開発)6
	12	プログラミング(開発)12	72	プログラミング(開発)7
	13	プログラミング(開発)13	73	プログラミング(開発)8
	14	プログラミング(開発)14	74	プログラミング(開発)9
	15	プログラミング(開発)15	75	プログラミング(開発)10
	16	プログラミング(開発)16	76	プログラミング(開発)11
	17	プログラミング(開発)17	77	プログラミング(開発)12
	18	プログラミング(開発)18	78	プログラミング(開発)13
	19	プログラミング(開発)19	79	プログラミング(開発)14
	20	プログラミング(開発)20	80	プログラミング(開発)15
	21	プログラミング(開発)21	81	プログラミング(開発)16
	22	プログラミング(開発)22	82	プログラミング(開発)17
	23	プログラミング(開発)23	83	プログラミング(開発)18
	24	プログラミング(開発)24	84	プログラミング(開発)19
	25	プログラミング(開発)25	85	プログラミング(開発)20
	26	プログラミング(開発)26	86	設計駆動テストの理論
	27	プログラミング(開発)27	87	設計駆動テストの実践
	28	プログラミング(開発)28	88	テストの実施1
	29	プログラミング(開発)29	89	テストの実施2
	30	プログラミング(開発)30	90	テストの実施3
	31	プログラミング(開発)31	91	テストの実践4
	32	プログラミング(開発)32	92	テストの実践5
	33	プログラミング(開発)33	93	テストの実践6
	34	プログラミング(開発)34	94	テストの実践7
	35	プログラミング(開発)35	95	テストの実践8
	36	プログラミング(開発)36	96	テストの実践9
	37	プログラミング(開発)37	97	テストの実践10
	38	プログラミング(開発)38	98	テストの実践11
	39	プログラミング(開発)39	99	テストの実践12
	40	プログラミング(開発)40	100	テストの実践13
	41	プログラミング(開発)41	101	テストの実践14
	42	プログラミング(開発)42	102	テストの実践15
	43	プログラミング(開発)43	103	テストの実践16
	44	プログラミング(開発)44	104	プログラミングコンテスト準備1
	45	プログラミング(開発)45	105	プログラミングコンテスト準備2
	46	プログラミング(開発)46	106	プログラミングコンテスト準備3
	47	プログラミング(開発)47	107	プログラミングコンテスト準備4
	48	プログラミング(開発)48	108	プログラミングコンテスト準備5
	49	プログラミング(開発)49	109	プログラミングコンテスト準備6
	50	プログラミング(開発)50	110	プログラミングコンテスト準備7
	51	プログラミング(開発)51	111	プログラミングコンテスト準備8
	52	プログラミング(開発)52	112	プログラミングコンテスト1
	53	プログラミング(開発)53	113	プログラミングコンテスト2
	54	プログラミング(開発)54	114	プログラミングコンテスト3
	55	プログラミング(開発)55	115	プログラミングコンテスト4
	56	プログラミング(開発)56	116	プログラミングコンテスト5
	57	プログラミング(開発)57	117	プログラミングコンテスト6
	58	プログラミング(開発)58	118	プログラミングコンテスト7
	59	プログラミング(開発)59	119	プログラミングコンテスト8
	60	プログラミング(開発)60	120	卒業研究振り返り
成績評価方法 (試験実施方法)	研究発表100% 研究成果のプレゼンテーションに対する講評			
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。			

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	マーケティング概論
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	2学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間(1単位)
授業コマ数	20コマ
授業概要	マーケティングの必要性と目的を学習する
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	マーケティングの知識を体系的に習得する
教科書	テキスト及び参考書
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 顧客満足① 2 顧客満足② 3 顧客満足③ 4 マーケティングの必要性① 5 マーケティングの必要性② 6 マーケティングの必要性③ 7 情報収集と分析① 8 情報収集と分析② 9 情報収集と分析③ 10 流通チャネル① 11 流通チャネル② 12 流通チャネル③ 13 プロモーション① 14 プロモーション② 15 プロモーション③ 16 財務知識① 17 財務知識② 18 事例研究① 19 事例研究② 20 事例研究③
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	マーケティング研究
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	2学期
科目区分	選択
授業方法	実習
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	事例研究を通じてマーケティングを演習・実習する
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る
達成目標	マーケティングの具体的な手法を理解する
教科書	テキスト及び参考書
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 店舗データの理解① 2 店舗データの理解② 3 マーケティングの流れ① 4 マーケティングの流れ② 5 売上構成分析① 6 売上構成分析② 7 来店客分析① 8 来店客分析② 9 商品分析① 10 商品分析② 11 費用分析① 12 費用分析② 13 課題抽出① 14 課題抽出② 15 アンケート調査分析① 16 アンケート調査分析② 17 企画作成① 18 企画作成② 19 企画作成③ 20 企画作成④
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、授業内レポートの完成度
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	マーケティング実習	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	2学期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	160時間	
授業コマ数	80コマ	
授業概要	マーケティングの知識を活かし、現状に即した企画案を作成する実習	
授業の進め方	各種資料による講義とディスカッションを通じ、専門的な知識と思考の定着を図る	
達成目標	マーケティングの知識を活かし、現状に即した企画案を作成する	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	1 業界分析① 2 業界分析② 3 業界分析③ 4 業界分析④ 5 情報収集① 6 情報収集② 7 情報収集③ 8 情報収集④ 9 情報収集⑤ 10 情報収集⑥ 11 情報収集⑦ 12 情報収集⑧ 13 店舗分析① 14 店舗分析② 15 店舗分析③ 16 店舗分析④ 17 店舗分析⑤ 18 店舗分析⑥ 19 店舗分析⑦ 20 店舗分析⑧ 21 店舗見学① 22 店舗見学② 23 店舗見学③ 24 店舗見学④ 25 店舗見学⑤ 26 店舗見学⑥ 27 店舗見学⑦ 28 店舗見学⑧ 29 課題抽出① 30 課題抽出② 31 課題抽出③ 32 課題抽出④ 33 課題抽出⑤ 34 課題抽出⑥ 35 課題抽出⑦ 36 課題抽出⑧ 37 仮説① 38 仮説② 39 仮説③ 40 仮説④ 41 仮説⑤ 42 仮説⑥ 43 仮説⑦ 44 仮説⑧ 45 調査・検証①	46 調査・検証② 47 調査・検証③ 48 調査・検証④ 49 調査・検証⑤ 50 調査・検証⑥ 51 調査・検証⑦ 52 調査・検証⑧ 53 調査・検証⑨ 54 調査・検証⑩ 55 企画案作成① 56 企画案作成② 57 企画案作成③ 58 企画案作成④ 59 企画案作成⑤ 60 企画案作成⑥ 61 企画案作成⑦ 62 企画案作成⑧ 63 企画案作成⑨ 64 企画案作成⑩ 65 中間発表① 66 中間発表② 67 中間発表③ 68 中間発表④ 69 中間発表⑤ 70 再検証① 71 再検証② 72 再検証③ 73 再検証④ 74 再検証⑤ 75 再検証⑥ 76 最終発表① 77 最終発表② 78 最終発表③ 79 最終発表④ 80 最終発表⑤
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、実践スキルの習熟状況	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	経理事務総合	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	2学期	
科目区分	選択	
授業方法	演習	
授業時間	120時間	
授業コマ数	60コマ	
授業概要	実務で必要とされる経理技術を身に付けることを目的とする	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	簿記を通じて学んだ会計知識を基に実務で要求される業務ができるようになる	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	1 所得税の基礎知識① 2 所得税の基礎知識② 3 所得税の基礎知識③ 4 年末調整のしかた① 5 年末調整のしかた② 6 年末調整のしかた③ 7 法定調書の流れ① 8 法定調書の流れ② 9 法定調書の流れ③ 10 個人住民税の特別徴収の給与支払報告書の提出① 11 個人住民税の特別徴収の給与支払報告書の提出② 12 個人住民税の特別徴収の給与支払報告書の提出③ 13 労働保険の概要及び会計処理① 14 労働保険の概要及び会計処理② 15 労働保険の概要及び会計処理③ 16 外貨建会計① 17 外貨建会計② 18 外貨建会計③ 19 外貨建会計④ 20 リース取引① 21 リース取引② 22 リース取引③ 23 リース取引④ 24 キャッシュ・フロー計算書① 25 キャッシュ・フロー計算書② 26 キャッシュ・フロー計算書③ 27 キャッシュ・フロー計算書④ 28 キャッシュ・フロー計算書⑤ 29 キャッシュ・フロー計算書⑥ 30 税効果会計①	31 税効果会計② 32 税効果会計③ 33 税効果会計④ 34 税効果会計⑤ 35 税効果会計⑥ 36 退職給付会計① 37 退職給付会計② 38 退職給付会計③ 39 退職給付会計④ 40 退職給付会計⑤ 41 消費税法① 42 消費税法② 43 消費税法③ 44 消費税法④ 45 消費税法⑤ 46 消費税法⑥ 47 消費税法⑦ 48 消費税法⑧ 49 消費税法⑨ 50 消費税法⑩ 51 法人税法① 52 法人税法② 53 法人税法③ 54 法人税法④ 55 法人税法⑤ 56 法人税法⑥ 57 法人税法⑦ 58 法人税法⑧ 59 法人税法⑨ 60 法人税法⑩
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	パソコン実習応用
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	2学期
科目区分	選択
授業方法	実習
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	Word：応用的な機能を活用し、効率的に正確なビジネス文書を作成するスキル習得のための実習 Excel：複雑なデータ集計を行うことやマクロ機能を用い、より効率的に編集を行うスキル習得のための実習
授業の進め方	反復練習と効果測定により、確実な知識とスキルの定着を図る
達成目標	Word：アウトライン機能や校閲機能を用い、効率的に正確なビジネス文章を作成することができる Excel：ピボットテーブルを使用して複雑なデータ集計を行うことができ、かつ、マクロ機能を使用して自動処理化することができる
教科書	テキスト及び参考書
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 文書の作成と管理① 2 文書の作成と管理② 3 文書の作成と管理③ 4 文書の作成と管理④ 5 データベース機能の利用① 6 データベース機能の利用② 7 データベース機能の利用③ 8 データベース機能の利用④ 9 データの抽出① 10 データの抽出② 11 データの抽出③ 12 データの抽出④ 13 ピボットテーブル① 14 ピボットテーブル② 15 ピボットテーブル③ 16 ピボットテーブル④ 17 マクロによる作業の自動化① 18 マクロによる作業の自動化② 19 マクロによる作業の自動化③ 20 マクロによる作業の自動化④
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	経理実務実習
実務家教員	○
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	2学期
科目区分	選択
授業方法	実習
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	実務で必要とされる事務処理を身に付けることを目的とする。消費税処理、伝票処理、給与処理などを中心に学ぶ。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	経理実務の年間業務スケジュールを理解し、特に所得税・住民税・社会保険料に関する基本的な理解・計算・書類作成を行う
教科書	テキスト及び参考書
特記	会計実務経験のある教員が、会計処理の方法、税務・社会保険会計書類の作成、税務知識について教育を行う科目
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 経理・総務の年間カリキュラム(基礎・作成) 2 小切手・手形の実務上のポイント(基礎・作成) 3 入出金伝票と現金出納帳(基礎・作成) 4 当座預金出納帳と手形記入帳(基礎・作成) 5 交際費、福利厚生費及び会議費用の区分(基礎・計算) 6 健康保険、厚生年金保険の概要及び会計処理(基礎) 7 源泉所得税(給与)の徴収・納付事務(基礎・計算) 8 源泉所得税(報酬)の徴収・納付事務(基礎①・計算) 9 源泉所得税(報酬)の徴収・納付事務(基礎②・計算) 10 源泉所得税(報酬)の徴収・納付事務(基礎③・計算・作成) 11 源泉所得税(報酬)の徴収・納付事務(基礎④・計算・作成) 12 源泉所得税(報酬)の徴収・納付事務(基礎⑤・計算・作成) 13 源泉所得税(報酬)の徴収・納付事務(基礎⑥・計算・作成) 14 個人住民税の徴収及び納付(基礎・計算・作成) 15 個人住民税の徴収及び納付(基礎①・計算・作成) 16 印紙税の基礎知識(基礎・計算・作成) 17 受取利息の会計処理(基礎・計算・作成) 18 消費税法の概要(基礎・計算・作成) 19 消費税の会計処理(基礎・計算・作成) 20 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	財務会計ソフト演習
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	2学期
科目区分	選択
授業方法	実習
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	会計ソフトを使って基礎的な入力処理を行い、試算表や決算書を作成するスキルを身につける実習
授業の進め方	反復練習と効果測定により、確実な知識とスキルの定着を図る
達成目標	会計ソフトを使って日常取引および決算手続きの入力操作を行い、決算書の作成ができる
教科書	テキスト及び参考書
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 振替伝票の入力操作① 2 振替伝票の入力操作② 3 入出金伝票の入力操作① 4 入出金伝票の入力操作② 5 仕訳帳の入力操作① 6 仕訳帳の入力操作② 7 売掛帳・買掛帳の入力操作① 8 売掛帳・買掛帳の入力操作② 9 現金出納帳・預金出納帳の入力操作① 10 現金出納帳・預金出納帳の入力操作② 11 勘定科目の追加登録 12 付箋機能 13 決算手続きの操作① 14 決算手続きの操作② 15 決算手続きの操作③ 16 決算手続きの操作④ 17 決算書の作成① 18 決算書の作成② 19 決算書の作成③ 20 翌期繰越処理
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	接客マナー実践	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	3学期	
科目区分	選択	
授業方法	実習	
授業時間	80時間	
授業コマ数	40コマ	
授業概要	企業内で必要とされる接客に関する基本的なルールの学習をする	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	企業内での接客に関する基本的な所作を演習し、習得する	
教科書	オリジナルテキスト・レジュメ	
特記		
授業計画	1	接客マナーとは
	2	接客の心構え
	3	お茶の入れ方、出し方
	4	お見送り
	5	後片付け
	6	接客の流れ①
	7	接客の流れ②
	8	演習①
	9	演習②
	10	演習③
	11	演習④
	12	演習⑤
	13	演習⑥
	14	演習⑦
	15	演習⑧
	16	演習⑨
	17	演習⑩
	18	演習⑪
	19	演習⑫
	20	演習⑬
	21	演習⑭
	22	演習⑮
	23	演習⑯
	24	演習⑰
	25	演習⑱
	26	演習⑲
	27	演習⑳
	28	演習㉑
	29	演習㉒
	30	演習㉓
	31	演習㉔
	32	演習㉕
	33	演習㉖
	34	演習㉗
	35	演習㉘
	36	演習㉙
	37	演習㉚
	38	演習㉛
	39	効果測定①
	40	効果測定②
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	パソコン実習Ⅱ
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	2学期
科目区分	選択
授業方法	実習
授業時間	80時間
授業コマ数	40コマ
授業概要	Officeソフトの基本操作を身に付けることを目的とする。 ワード・エクセルの操作方法の復習と他のソフトの基本操作について学ぶ。
授業の進め方	反復練習と効果測定により、確実な知識とスキルの定着を図る
達成目標	Word：アウトライン機能や校閲機能を用い、効率的に正確なビジネス文章を作成することができる Excel：ピボットテーブルを使用して複雑なデータ集計を行うことができ、かつ、マクロ機能を使用して自動処理化することができる
教科書	テキスト及び参考書
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 文章の作成と管理① 2 文章の作成と管理② 3 文章の作成と管理③ 4 表作成の基本操作① 5 表作成の基本操作② 6 表作成の基本操作③ 7 表、画像、図形を使った文書の作成(2)① 8 表、画像、図形を使った文書の作成(2)② 9 表、画像、図形を使った文書の作成(2)③ 10 見やすく使いやすい表にする編集操作① 11 見やすく使いやすい表にする編集操作② 12 見やすく使いやすい表にする編集操作③ 13 見やすく使いやすい表にする編集操作④ 14 見やすく使いやすい表にする編集操作⑤ 15 見やすく使いやすい表にする編集操作⑥ 16 数式・関数を活用した集計表の作成① 17 数式・関数を活用した集計表の作成② 18 数式・関数を活用した集計表の作成③ 19 ワークシート間の集計① 20 ワークシート間の集計② 21 ワークシート間の集計③ 22 グラフの基本① 23 グラフの基本② 24 グラフの基本③ 25 目的に応じたグラフの作成と編集① 26 目的に応じたグラフの作成と編集② 27 目的に応じたグラフの作成と編集③ 28 データベース機能の利用① 29 データベース機能の利用② 30 データベース機能の利用③ 31 データの抽出① 32 データの抽出② 33 データの抽出③ 34 ピボットテーブル① 35 ピボットテーブル② 36 ピボットテーブル③ 37 マクロによる作業の自動化① 38 マクロによる作業の自動化② 39 マクロによる作業の自動化③ 40 マクロによる作業の自動化④
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	実務会計実習
実務家教員	○
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	2学期
科目区分	選択
授業方法	実習
授業時間	40時間
授業コマ数	20コマ
授業概要	商企業を前提とした事務手続きに必要な知識習得を目的とする。 商品の発注・受注から納品・請求までの一連の事務手続きについて学ぶ。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	会計上・税務上のポイントを捉え経理・財務の基礎的な業務知識を身に付ける
教科書	テキスト及び参考書
特記	会計実務経験のある教員が、実務の会計処理の方法について教育を行う科目
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 売掛債権管理① 2 売掛債権管理② 3 売掛債権管理③ 4 売掛債権管理④ 5 買掛債務管理① 6 買掛債務管理② 7 買掛債務管理③ 8 買掛債務管理④ 9 在庫管理① 10 在庫管理② 11 在庫管理③ 12 在庫管理④ 13 固定資産① 14 固定資産② 15 固定資産③ 16 固定資産④ 17 ソフトウェア管理① 18 ソフトウェア管理② 19 ソフトウェア管理③ 20 ソフトウェア管理④
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	総合演習（接遇論マナー実践）
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	2学期
科目区分	選択
授業方法	実習
授業時間	80時間
授業コマ数	40コマ
授業概要	企業内で必要とされる接遇に関する基本的なルールの学習をする
授業の進め方	テキストによる講義と演習により、知識の定着を図る
達成目標	企業内での接遇に関する基本的な所作を演習し、習得する
教科書	オリジナルテキスト・レジュメ
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 接遇マナーとは 2 接遇の心構え 3 電話の対応 4 接客① 5 接客② 6 接遇の流れ① 7 接遇の流れ② 8 演習① 9 演習② 10 演習③ 11 演習④ 12 演習⑤ 13 演習⑥ 14 演習⑦ 15 演習⑧ 16 演習⑨ 17 演習⑩ 18 演習⑪ 19 演習⑫ 20 演習⑬ 21 演習⑭ 22 演習⑮ 23 演習⑯ 24 演習⑰ 25 演習⑱ 26 演習⑲ 27 演習⑳ 28 演習㉑ 29 演習㉒ 30 演習㉓ 31 演習㉔ 32 演習㉕ 33 演習㉖ 34 演習㉗ 35 演習㉘ 36 演習㉙ 37 演習㉚ 38 演習㉛ 39 効果測定① 40 効果測定②
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	英語	
実務家教員		
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース	
履修年次	2年次	
開講学期	2学期	
科目区分	選択	
授業方法	演習	
授業時間	120時間	
授業コマ数	60コマ	
授業概要	英語の基本構造を理解し、総合基礎英語力を身に付ける	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	場面別の簡単な英会話を習得する	
教科書	テキスト及び参考書	
特記		
授業計画	1 レストランでの場面別英会話① 2 レストランでの場面別英会話② 3 レストランでの場面別英会話③ 4 レストランでの場面別英会話④ 5 レストランでの場面別英会話⑤ 6 招待、訪問時の英会話① 7 招待、訪問時の英会話② 8 招待、訪問時の英会話③ 9 招待、訪問時の英会話④ 10 招待、訪問時の英会話⑤ 11 ショッピングでの場面別英会話① 12 ショッピングでの場面別英会話② 13 ショッピングでの場面別英会話③ 14 ショッピングでの場面別英会話④ 15 ショッピングでの場面別英会話⑤ 16 電話編① 17 電話編② 18 電話編③ 19 電話編④ 20 電話編⑤ 21 ホテルでの場面別英会話① 22 ホテルでの場面別英会話② 23 ホテルでの場面別英会話③ 24 ホテルでの場面別英会話④ 25 ホテルでの場面別英会話⑤ 26 観光地での場面別英会話① 27 観光地での場面別英会話② 28 観光地での場面別英会話③ 29 観光地での場面別英会話④ 30 観光地での場面別英会話⑤	31 トラブル時での場面別英会話① 32 トラブル時での場面別英会話② 33 トラブル時での場面別英会話③ 34 トラブル時での場面別英会話④ 35 トラブル時での場面別英会話⑤ 36 総合編① 37 総合編② 38 総合編③ 39 総合編④ 40 総合編⑤ 41 総合編⑥ 42 総合編⑦ 43 総合編⑧ 44 総合編⑨ 45 総合編⑩ 46 総合編⑪ 47 総合編⑫ 48 総合編⑬ 49 総合編⑭ 50 総合編⑮ 51 総合編⑯ 52 総合編⑰ 53 総合編⑱ 54 総合編⑲ 55 総合編⑳ 56 総合編㉑ 57 総合編㉒ 58 総合編㉓ 59 総合編㉔ 60 総合編㉕
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	経営学概論
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	2学期
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
授業時間	60時間
授業コマ数	30コマ
授業概要	企業がいかに行動すべきかの知識習得を目的とし、戦略論・組織論とファイナンス理論の分野について学ぶ
授業の進め方	各種資料による講義とディスカッションを通じ、専門的な知識と思考の定着を図る
達成目標	企業行動を事例学習による知識の習得をする
教科書	テキスト及び参考書
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 国際社会に関する基礎用語① 2 国際社会に関する基礎用語② 3 国際社会に関する事例学習① 4 国際社会に関する事例学習② 5 経済に関する基礎用語① 6 経済に関する基礎用語② 7 経済に関する事例学習① 8 経済に関する事例学習② 9 労働環境に関する基礎用語① 10 労働環境に関する基礎用語② 11 労働環境に関する事例学習① 12 労働環境に関する事例学習② 13 IT社会に関する基礎用語① 14 IT社会に関する基礎用語② 15 IT社会に関する事例学習① 16 IT社会に関する事例学習② 17 経営に関する基礎用語① 18 経営に関する基礎用語② 19 経営に関する事例学習① 20 経営に関する事例学習② 21 AIに関する基礎用語① 22 AIに関する基礎用語② 23 AIに関する事例学習① 24 AIに関する事例学習② 25 事例研究① 26 事例研究② 27 事例研究③ 28 事例研究④ 29 事例研究⑤ 30 事例研究⑥
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	体育
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	3学期
科目区分	選択
授業方法	講義及び実習
授業時間	60時間
授業コマ数	30コマ
授業概要	身体運動を媒体として人間形成にを目指すことを目的とし、各種運動を通じて、健康な生活を営む態度を学ぶ
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	スキー・スノーボードのスキルを身に付ける
教科書	テキスト及び参考書
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 初歩動作から一人すべり、スノーボードの楽しさをしる・安全の確保・マナー 2 ノーズドロップからの停止(ターンと停止) 3 ターンの形、サイズ変更Ⅰ ミドルターン 4 ターンの形、サイズ変更Ⅱ ロングターン 5 ターンの形、サイズ変更Ⅲ ショートターン 6 ターンの形、サイズ変更Ⅳ カービングターンロング 7 ターンの形、サイズ変更Ⅴ カービングターンショート 8 ターンの形、サイズ変更Ⅵ ベーシックカーブロング 9 ターンの形、サイズ変更Ⅶ フリーライディング 10 ターンの形、サイズ変更の応用 ベーシックカーブショート 11 ターンの形、サイズ変更の応用 ベーシックカーブロング 12 ターンの形、サイズ変更の応用 フリーライディング 13 リズム変化 斜度変化 14 リズム変化 スピード・不整地の対応 15 バッチテスト 16 初歩動作から一人すべり、スキーの楽しさをしる・安全の確保・マナー 17 ハの字から連続回転 18 連続回転からパラレル 19 パラレルターンⅠ リズム・タイミング・コース取り(大回り) 20 パラレルターンⅡ リズム・タイミング・コース取り(小回り) 21 ハの字と平行を組合せるⅠ 基礎技能の強化 22 ハの字と平行を組合せるⅡ パラレルターンの基礎 23 ハの字と平行を組合せるⅢ パラレルターンの応用 24 ハの字と平行を組合せるⅣ パラレルターンの習得 25 スキー揃えて滑るⅠ 整地・コブ斜面(小回り・大回り) 26 スキー揃えて滑るⅡ 整地・コブ斜面 応用技能の強化 27 リズム変化 状況対応能力の強化 28 リズム変化 斜度変化 29 リズム変化 スピード・不整地の対応 30 バッチテスト
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、実践スキルの習熟状況
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	高等商業簿記論
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	80時間
授業コマ数	40コマ
授業概要	現行基準の基礎となる会計制度の変遷を理解することを目的とする
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	現行基準の理論体系の理解を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 財務諸表(入門編) 2 有価証券(入門編) 3 デリバティブ取引・ヘッジ会計(入門編) 4 有形固定資産(入門編) 5 割引現在価値(入門編) 6 リース取引①(入門編) 7 リース取引②(入門編) 8 固定資産の減損(入門編) 9 研究開発費とソフトウェア(入門編) 10 繰延資産(入門編) 11 社債(入門編) 12 引当金①(入門編) 13 引当金②(入門編) 14 退職給付①(入門編) 15 退職給付②(入門編) 16 資産除去債務(入門編) 17 純資産(入門編) 18 新株予約権と新株予約権付社債(入門編) 19 ストック・オプション(入門編) 20 税効果会計①(入門編) 21 税効果会計②(入門編) 22 外貨建取引①(入門編) 23 外貨建取引②(入門編) 24 商品売買等①(入門編) 25 商品売買等②(入門編) 26 商品売買等③(入門編) 27 工事契約(入門編) 28 本支店会計①(入門編) 29 本支店会計②(入門編) 30 連結財務諸表総論(入門編) 31 資本連結(入門編) 32 成果連結(入門編) 33 持分法(入門編) 34 連結税効果会計(入門編) 35 包括利益(入門編) 36 在外子会社(入門編) 37 企業結合(入門編) 38 事業分離①(入門編) 39 事業分離②(入門編) 40 事業分離③(入門編)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	会計学
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
授業時間	80時間
授業コマ数	40コマ
授業概要	現行基準の理論体系の理解を目的とする。会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計について、より詳細に学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	簿記1級検定合格程度の会計知識および計算技術の習得を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 現金預金、債権の譲渡、デリバティブ取引、有価証券、リース取引 2 貸倒引当金、ヘッジ会計、減損会計、社債、退職給付会計 3 資産除去債務、セール・アンド・リースバック取引、ストック・オプション 4 自己株式、為替予約、外貨建有価証券、圧縮記帳 5 売価還元原価法、転換社債 6 電子記録債権、特別目的会社、剰余金の配当、固定資産 7 連結会計 8 キャッシュフロー計算書、企業結合 9 返品調整引当金、外貨建有価証券(減損)、ヘッジ会計 10 本支店会計総合問題(在外支店) 11 本支店会計総合問題(決算整理後合併残高試算表) 12 決算整理後残高試算表作成(会計上の変更) 13 決算整理後残高試算表作成(委託販売) 14 損益計算書作成(各種財務諸表金額算定) 15 損益計算書作成(財務諸表の注記に関する金額算定) 16 連結損益計算書 17 連結貸借対照表 18 会計上の変更 19 包括利益 20 理論対策:語群選択問題、正誤判定および穴埋め問題、記述問題① 21 理論対策:語群選択問題、正誤判定および穴埋め問題、記述問題② 22 理論対策:語群選択問題、正誤判定および穴埋め問題、記述問題③ 23 理論対策:語群選択問題、正誤判定および穴埋め問題、記述問題④ 24 理論対策:語群選択問題、正誤判定および穴埋め問題、記述問題⑤ 25 理論対策:語群選択問題、正誤判定および穴埋め問題、記述問題⑥ 26 総合問題対策①(テスト形式の問題解説_基礎編) 27 総合問題対策①(テスト形式の問題解説_基礎編) 28 総合問題対策②(テスト形式の問題解説_基礎編) 29 総合問題対策②(テスト形式の問題解説_基礎編) 30 総合問題対策③(テスト形式の問題解説_基礎編) 31 総合問題対策③(テスト形式の問題解説_基礎編) 32 総合問題演習①(テスト形式_基礎編) 33 総合問題演習①(テスト形式_基礎編) 34 総合問題演習②(テスト形式_基礎編) 35 総合問題演習②(テスト形式_基礎編) 36 総合問題演習③(テスト形式_基礎編) 37 総合問題演習③(テスト形式_基礎編) 38 総合問題演習④(テスト形式_基礎編) 39 総合問題演習④(テスト形式_基礎編) 40 総合問題演習⑤(テスト形式_基礎編)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	1級総合Ⅱ
実務家教員	
学部・学科	経理本科2年制学科 税理士コース
履修年次	2年次
開講学期	1学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	80時間
授業コマ数	40コマ
授業概要	簿記1級検定合格の会計知識と計算技能の習得を目的とする
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	現行基準の理論体系の理解を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 財務諸表(応用編) 2 有価証券(応用編) 3 デリバティブ取引・ヘッジ会計(応用編) 4 有形固定資産(応用編) 5 割引現在価値(応用編) 6 リース取引①(応用編) 7 リース取引②(応用編) 8 固定資産の減損(応用編) 9 研究開発費とソフトウェア(応用編) 10 繰延資産(応用編) 11 社債(応用編) 12 引当金①(応用編) 13 引当金②(応用編) 14 退職給付①(応用編) 15 退職給付②(応用編) 16 資産除去債務(応用編) 17 純資産(応用編) 18 新株予約権と新株予約権付社債(応用編) 19 スtock・オプション(応用編) 20 税効果会計①(応用編) 21 税効果会計②(応用編) 22 外貨建取引①(応用編) 23 外貨建取引②(応用編) 24 商品売買等①(応用編) 25 商品売買等②(応用編) 26 商品売買等③(応用編) 27 工事契約(応用編) 28 本支店会計①(応用編) 29 本支店会計②(応用編) 30 連結財務諸表総論(応用編) 31 資本連結(応用編) 32 成果連結(応用編) 33 持分法(応用編) 34 連結税効果会計(応用編) 35 包括利益(応用編) 36 在外子会社(応用編) 37 企業結合(応用編) 38 事業分離①(応用編) 39 事業分離②(応用編) 40 事業分離③(応用編)
成績評価方法 (試験実施方法)	確認テスト100% 科目習熟度を測定するテスト
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を80点以上「優」、60点～79点「良」、50点～59点「可」、50点未満は「不可」の4段階評価とする。